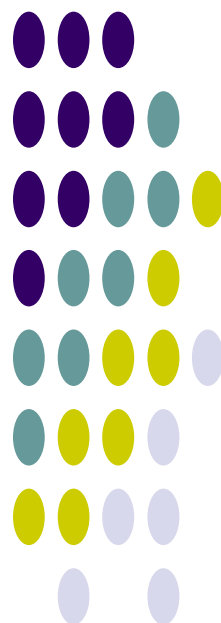


2 0 2 6 年 度  
シ ラ バ ス

介 護 福 祉 学 科



HOKUTO GAKUEN  
学校法人 北杜学園  
仙台医療福祉専門学校

## 1年生開講科目

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
人間の尊厳と自立	30	2		1
人間関係とコミュニケーション	30	2	○	2
生活の中の福祉	30	2	○	3
生涯発達論	30	2	○	4
家政学総論	30	2	○	5
現代社会と倫理	30	2		6
介護福祉論Ⅰ	30	2	○	7
介護福祉論Ⅱ	30	2	○	8
介護の基本Ⅰ	30	2	○	9
介護の基本Ⅱ	30	2	○	10
コミュニケーション技術Ⅰ	30	2		11
生活支援概論	30	2	○	12
生活・余暇支援技術	30	2		13
生活・介護支援技術Ⅰ	60	4	○	14
生活・介護支援技術Ⅱ	60	4	○	16

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
介護過程Ⅰ	30	2	○	18
介護総合演習Ⅰ	40	2	○	19
介護総合基礎演習	20	1	○	20
介護実習Ⅰ	120	3	○	21
人間の成長と発達	30	2	○	22
老化に伴うこころのケア	30	2	○	23
認知症の理解Ⅰ	30	2	○	24
障害の理解Ⅰ	30	2	○	25
からだのしくみ	30	2	○	26
こころのしくみ	30	2		27
こころとからだのしくみⅠ	30	2		28
基礎ゼミ	30	1	○	29
医療的ケアの基礎	20	1	○	30
喀痰吸引	26	1	○	31
PC表現	30	1		32

## 2年生開講科目

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
組織活動・チームマネジメント	30	2	○	33
社会保障と社会福祉に関する諸制度	30	2		34
介護福祉士実践論	30	2	○	35
介護福祉とリハビリテーション	30	2	○	36
コミュニケーション技術Ⅱ	30	2	○	37
生活・家事支援技術	60	4	○	38
生活・介護支援技術Ⅲ	60	4	○	40
介護過程Ⅱ	60	4	○	42
介護過程実践	60	4	○	44

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
介護総合演習Ⅱ	60	3	○	46
介護実習Ⅱ	160	4	○	48
介護実習Ⅲ	176	4	○	49
認知症の理解Ⅱ	30	2	○	50
障害の理解Ⅱ	30	2	○	51
こころとからだのしくみⅡ	30	2	○	52
基礎ゼミ	30	1	○	53
経管栄養	26	1	○	54
医療的ケアの演習	28	1	○	55

実務経験のある教員が実施する授業科目の合計授業時数	1756時間
実務経験のある教員が実施する授業科目の合計単位数	91単位

科目名		人間の尊厳と自立		担当教員	末永 亜衣		評価の方法	試験(筆記)	70%	
実務経験 授業科目								出席率	30%	
対象学科		介護福祉学科		開講時期	後期	単位数		2単位		
必修・選択		必修						授業時間数	30時間	
配当年次		1年		授業形態	講義	授業回数		30回		
テキスト・参考文献		『最新・介護福祉士養成講座第1 人間の理解』（中央法規出版）								
授業概要		対人援助に必要な自由、平等、尊厳などの価値を、歴史や現代社会の中から捉える。日常生活における自立の意味とそのサポートについて考える。								
到達目標		「人間」の理解を基礎として、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。介護場面における倫理的課題について対応できる基礎能力を養う。								
授業コマ数		テーマ		内容						
1		オリエンテーション		学習の技術、シラバスや試験、評価方法の説明						
2		福祉とは何か		福祉の語源						
3		社会福祉と幸福		自助と共助と公助のバランス（社会的援助は必要なの）						
4				返報性の原則						
5		人間の尊厳と個人の尊重		S e I f -E s t e e m（自尊感情）や自己実現の理解						
6				自己決定がなぜ必要なのか						
7		援助関係の種類と作り方		倫理領域は何故必要か						
8				関係の切り替えと自立に向けた関りについて理解する						
9		人の幸福を支えるとは、どういうことか		相手の話をよく聴くための原則						
10				自分の話したいことを抑えて人の言うことをよく聴き判断する能力						
11		自立とは何か		自立思想の変遷、自立の種類や概念について学ぶ						
12										
13		介護福祉とは何か		介護福祉の概念や、他者に世話をゆだねる利用者への理解を求める						
14										
15		介護福祉実践に求められる人間理解		「その人らしく生きる」ことの意味と、利用者を個別化することの大切さを知る。多様な価値観を知ることの一般的な重要性を知る						
16										
17		利用者を理解し支える専門性		専門性の前提条件や介護福祉士としての専門性について知る						
18										
19		介護の基礎技能とは何か①		実践力の向上（自分で考え、発信していく能力）						
20				それを阻む課題の発見						
21		介護の基礎技能とは何か②		基礎技能の具体的内容の理解						
22										
23		尊厳を支える介護		介護を受ける人の気持ちを理解する						
24				尊厳を支える具体的な実践を考える						
25		自立を支える介護		利用者や家族の自立とは何かを理解する						
26				自立を支える具体的な実践を考える						
27		地域生活支援の実践		事例検討を通じて、身近な地域でその人らしく生きられる方法を検討						
28										
29		まとめ		自己決定の尊重と専門職の責任について考える						
30										

科目名		人間関係とコミュニケーション	担当教員	齋藤 享子		評価の方法	試験(筆記)	80%	
実務経験 授業科目	○	短期大学、専門学校にてビジネスマナーの授業を担当					出席率	20%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修			授業形態	講義		授業時間数	30時間	
配当年次	1年		授業回数				30回		
テキスト・参考文献	介護福祉スタッフのマナー基本テキスト(日本能率協会マネジメント)								
授業概要	①介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を身に付ける ②社会人として、専門職業人としての常識やマナーを理解する ③日本古来の行事や習慣、しきたりを知る								
到達目標	対人援助者としてのコミュニケーション技術が身に付くとともに、一人の社会人としても常識をわきまえた行動がとれる								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	社会で働くということ	学生との違いを確認し社会人としての意識を高める							
2	自己紹介、学生と社会人の違い	自己紹介の意図、接遇マナーの5原則							
3	社会人として必要なマナー 1	第一印象を高めるためのポイント							
4	第一印象を磨く	(あいさつ・表情・立ち居振る舞い・身だしなみ)							
5	社会人として必要なマナー 2	社会人基礎力							
6	職場での基本マナー	(組織理解、8つの意識、就業中のマナー)							
7	社会人として必要なマナー 3	相手の価値観を受け入れる聴き方							
8	人間関係を築く聴き方	ロールプレイング(共感の姿勢)							
9	社会人として必要なマナー 4	敬語の遣い分け プラスの表現							
10	人間関係を築く話し方	相手に敬意を払う話し方							
11	社会人として必要なマナー 5	電話の特性を理解・声の表現力、携帯電話のマナー							
12	電話応対①								
13	社会人として必要なマナー 6	ロールプレイング							
14	電話応対②	分かり易く伝える言葉選び、伝言メモの記載方法							
15	社会人として必要なマナー 7	受付からお見送りまでの流れ							
16	来客応対①	(案内・席次・物の授受)							
17	社会人として必要なマナー 8	接遇応対ケーススタディ							
18	来客応対②	(案内の仕方・席次の判断・お茶の入れ方・出し方)							
19	ビジネス文書の基本 1	社内、社外文書の基本フォーマット							
20									
21	ビジネス文書の基本 2	社交文書のマナー							
22									
23	冠婚葬祭時のマナー	慶弔時のマナーとタブー							
24									
25	祝日と1年の行事	祝日の意味・各行事の由来							
26									
27	タッチセラピーの有用性	肌に触れことで起こる心と体の変化							
28		アロマハンドトリートメント実技							
29	前期のまとめ	前期の復習							
30									

科目名		生活の中の福祉	担当教員		宇田川 佳浩		評価の方法	試験（筆記）	80%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として業務に従事した経験のある教員が、障害や高齢者の理解を基本に地域での福祉について講義を行う。						出席率	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数	2単位			
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数	30時間			
配当年次	1年				授業回数	30回			
テキスト・参考文献	最新 介護福祉士養成講座2 『社会の理解』（中央法規出版）								
授業概要	各段階のライフステージにおいて、『福祉』がどのように生活の中で存在しているのかを事例を通して学ぶ。また、日本ならではの風習や地域性について学ぶことで、価値観を含め違いがあることを受容できるようにする。								
到達目標	家族の仕組みや地域における福祉の在り方などを、実際の自分の地域に置き換えながら考えることができる知識を身に着ける								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	導入、動機づけ、学習内容の説明		地域、環境、社会資源などの違いを含めて、自分自身の『生活』とは何かを考える						
2									
3	生活の基本機能 生活の機能性		個々の実生活から『生活をする』をするということを考える						
4			ライフステージについて学ぶ						
5	家族の機能と役割①『家族』『家庭』		家族の定義、家族分類について学ぶ。また、自分自身の家族を参考にジェノグラムで可視化する						
6									
7	家族の機能と役割②『世帯』『家族機能』		世帯の定義、家族制度について学ぶ。家族のもつ機能についてGWを通して学ぶ						
8									
9	地域、地域社会の概念①『地域』		『地域』の捉え方 都市化現象、過疎化現象を伴う共存の実態						
10			社会集団の種類と分類						
11	地域、地域社会の概念②『社会』『組織』		集団、組織とは何かを身近な集団、組織から考え学ぶ						
12									
13	地域、地域社会の概念③『集団』『組織』		グループワーク（GW）を通して、身近な組織、必要と考える集団、組織とは何かを考える						
14									
15	ライフスタイルの変化①『高齢化』『少子化』		少子化と高齢化の実情を知り、今後の課題、解決案を考える						
16									
17	ライフスタイルの変化② 制度『育児と介護』		介護休業（休暇）、育児休業（休暇）、養子縁組、ハラスメントについて学ぶ						
18									
19	地域社会における生活支援		ナショナルミニマムを中心として制度について考える						
20			社会保障について						
21	生活保護と生活困窮 ①		日本における貧困対策や制度について						
22									
23	生活保護と生活困窮 ②		生活保護法と生活困窮者自立支援法とのつながり						
24									
25	地域共生社会のための概念や制度 ①		地域福祉の理念と歴史的展開について学び、災害と地域社会のつながりについて						
26									
27	地域共生社会のための概念や制度 ②		地域福祉の中核となる地域包括ケアの理念とシステムについて						
28									
29	学習のまとめ		定期試験、国家試験に向けての復習						
30									

科目名		生涯発達論	担当教員	矢口 怜		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、相談員などの経験を活かして、介護福祉士に必要な専門知識や制度などを教授する。						課題	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位	出席	10%
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数		30回		
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座第12巻 発達と老化の理解（中央法規出版）								
授業概要	中年期・老年期の発達と心理を知る。また、身体・感覚・認知機能のエイジングと心理的問題を理解し支援の在り方を知る								
到達目標	介護福祉士は対人援助専門職であり、特に高齢者を援助することが中心となる。高齢者を生涯発達の観点から理解を深め、専門職として関わるうえで必要な知識を学ぶ								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	人間の成長と発達の基礎的知識①		成長や成熟という言葉を通して人が発達していくことへの理解						
2									
3	人間の成長と発達の基礎的知識②		生涯発達という考え方に基づいて老年期における変化について						
4									
5	人間の成長と発達の基礎的知識③		発達の順序性、方向性について						
6									
7	人間の成長と発達の基礎的知識④		成長・発達に影響する要因について特徴をまとめる（遺伝、環境）						
8									
9	人間の発達段階と発達課題①		発達理論について理解する						
10									
11	人間の発達段階と発達課題②		発達段階説と発達課題（ピアジェ、エリクソン、ハヴィガースト）をまとめる						
12									
13	人間の発達段階と発達課題③		身体的機能の成長と発達（運動機能の発達）						
14									
15	人間の発達段階と発達課題④		身体的機能の成長と発達（発達にともなう特徴的な疾病や障害）を理解する						
16									
17	人間の発達段階と発達課題⑤		心理的機能・社会的機能の発達を理解する						
18									
19	老年期の特徴と発達課題①		老年期の定義について						
20									
21	老年期の特徴と発達課題②		老化（老化の特徴・老化学説）について						
22									
23	老年期の特徴と発達課題③		老年期の発達課題						
24									
25	老年期の特徴と発達課題④		老いの喪失体験を価値転換する心理変化						
26									
27	老年期の特徴と発達課題⑤		サクセスフル・エイジングと老年期						
28									
29	まとめ		復習とまとめ						
30									

科目名		家政学総論	担当教員	①松根 ひろ子 ②高鳥 美奈子		評価の方法	試験（筆記）	90%	
実務経験 授業科目	○	病院にて管理栄養士として就業、食事指導及び給食管理業務の他、小学校の肥満児教室、地域高齢者対象に講演等を定期的に行った。また、洋品店でのリフォーム、ヘルパー・訪問介護員養成に携わり生活支援のアドバイザーを務めた経験も活用している。					平常点 (課題提出・出席状況)	10%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	「生活支援の基礎を学ぶ」介護福祉看護実践のための家政学（建帛社） 2026 生活Navi（実教出版）								
授業概要	家庭生活の意義を考え、円滑に送るために家族と福祉、衣・食・住、消費生活における知識と方法を具体的に学ぶ。								
到達目標	家庭経営、衣、食、住に関する様々な技能を実践するための知識を得る。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	家庭生活と家族 ・家庭生活の意義と管理		家政学とは、家族についての理解 家庭生活の意義						
2									
3	家庭経営の体系		家庭経営とは 家事労働・家事援助 私たちの生活とSDGs						
4									
5	家庭経営の重要性		家庭経営の重要性 住居と生活時間						
6									
7	家庭周期と生活設計		ライフサイクル 家族周期 家族の変化と住生活						
8									
9	家庭経済		国民経済とは、社会変動と家庭経済 収支と支出						
10									
11	被服の役割と機能・被服の素材		人は何故服を着るのか 被服の素材としての繊維						
12									
13	被服と保健衛生		被服繊維について 被服の衛生的条件						
14									
15	被服の管理		衣生活の過程 洗濯・染み抜き						
16									
17	被服の選択		被服の品質表示とサイズ 既製服のサイズと選択						
18									
19	日本人の食生活		食生活の機能と問題点 食文化と食習慣						
20									
21	栄養素の種類と体内における役割①		炭水化物 タンパク質 脂質						
22									
23	栄養素の種類と体内における役割②		ビタミン ミネラル						
24									
25	栄養素の種類と体内における役割③		栄養素と食品の関係						
26									
27	栄養素の消化・吸収・代謝		炭水化物・たんぱく質・脂質の消化吸収代謝						
28									
29	食事摂取基準		食事摂取基準 食事バランスガイド						
30									

科目名		現代社会と倫理	担当教員	末永 亜衣		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目							出席率	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位	
必修・選択	必修				授業時間数		30時間	
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数		30回	
テキスト・参考文献		・生命倫理学入門（産業図書） ・マンガで学ぶ生命倫理（化学同人）						
授業概要		テキストや資料の内容を様々な価値観、方向性から考察することを通して、医療・介護福祉の現場に即した倫理的問題について考え、医療・介護福祉の専門職としての倫理観を養う。						
到達目標		対人援助者として、生命倫理の視点・健康を守る視点・生活を守る視点・職業倫理の視点から、物事を正確に観て判断し、責任ある行動が取れるようになる。						
授業コマ数	テーマ	内容						
1 2	倫理学入門①	オリエンテーションとして、本講義の概要と評価方法について説明をおこなう。倫理学の基本的な考え方について学ぶ。						
3 4	倫理学入門②	倫理学の成り立ち（歴史）について学ぶ。						
5 6	倫理学入門③	倫理学における二つの立場（良い・悪い、善・悪、可・不可）について学ぶ。（ディベートによるグループワークについて）						
7 8	倫理的規範と実践①	グループワーク『生殖医療（生殖補助医療）』						
9 10	倫理的規範と実践②	グループワーク『がん告知とインフォームドコンセント』						
11 12	倫理的規範と実践③	グループワーク『中絶と胎児の権利①』						
13 14	倫理的規範と実践④	グループワーク『中絶と胎児の権利②』						
15 16	倫理的規範と実践⑤	グループワーク『終末期医療と安楽死①』						
17 18	倫理的規範と実践⑥	グループワーク『終末期医療と安楽死②』（脳死について）						
19 20	医療・介護福祉の倫理①	視聴覚資料を用いてを現実問題として捉え学ぶ。①						
21 22	医療・介護福祉の倫理②	視聴覚資料を用いてを現実問題として捉え学ぶ。②						
23 24	医療・介護福祉の倫理③	ターミナルケアとその周辺の諸概念（ホスピス、緩和医療等）について考察する。①						
25 26	医療・介護福祉の倫理④	ターミナルケアとその周辺の諸概念（ホスピス、緩和医療等）について考察する。②						
27 28	医療・介護福祉の倫理⑤	今後の医療・介護福祉と倫理学のかかわりについて考察する。						
29 30	「倫理学」の総括	本講義を振り返りその要点をまとめることで、「倫理学」の総括をおこなう。						

科目名		介護福祉論 I		担当教員	永野 淳子		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、介護の歴史を通し、介護の意義や役割、介護福祉士の専門性について講義を行う。						出席状況	10%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数	2単位		課題	20%
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ 第4巻 介護の基本Ⅱ（中央法規出版） 介護福祉士の教科書（TAC介護福祉士 受験対策研究会）								
授業概要	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解する。 介護実践の基本的姿勢について、介護の倫理などを通して理解する。								
到達目標	①「尊厳の保持」「自立支援」ということを具体的に理解した上で介護実践者としての行動が出来る。 ②介護福祉士の専門性独自性を理解した上で、介護に対する意欲と誇りが持てる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	介護福祉士とは		オリエンテーション 介護とは、介護福祉士とは何か						
2	介護福祉士とは		DVDを通して、「介護」を理解する						
3	介護福祉士の基本となる理念 ①		介護の成り立ち、社会的背景を理解する						
4	介護福祉士の基本となる理念 ②		介護福祉士の業の変遷について理解する 1						
5	介護福祉士の基本となる理念 ③		介護福祉士の業の変遷について理解する 2						
6	介護福祉士の基本となる理念 ④		介護福祉の基本となる理念を理解する						
7	「求められる介護福祉士像」①		介護福祉士の活動の場と役割を理解する						
8	「求められる介護福祉士像」②		「社会福祉士及び介護福祉士法」について学ぶ 1						
9	「求められる介護福祉士像」③		「社会福祉士及び介護福祉士法」について学ぶ 2						
10	「求められる介護福祉士像」④		「求められる介護福祉士像」を理解する						
11	「求められる介護福祉士像」⑤		介護福祉士を支える団体の働きを知る						
12	介護福祉の倫理 ①		介護実践における職業倫理を学ぶ						
13	介護福祉の倫理 ②		事例を通して介護実践における職業倫理を学ぶ						
14	介護福祉の倫理 ③		日本介護福祉士会の倫理綱領より、介護福祉の専門性と倫理を学ぶ						
15	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ		介護を必要とする障害者の暮らしについて事例やDVDを通して学ぶ						
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

科目名		介護福祉論Ⅱ		担当教員	永野 淳子		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、介護の理念や多職種連携等の重要性について講義を行う。						受講態度	10%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数	2単位		課題	20%
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ 第4巻 介護の基本Ⅱ (中央法規出版) 介護福祉士の教科書 (TAC介護福祉士 受験対策研究会)								
授業概要	介護福祉の理念や原則を理解し、さらに障がい者サービスやチームアプローチの必要性を理解し、多職種連携・協働について学ぶ。また、介護従事者の健康管理などを通し、安全・安心・信頼のおける介護について理解する。								
到達目標	①「尊厳の保持」「自立支援」ということを具体的に理解した上で介護実践者としての行動が出来る。 ②介護福祉士の専門性独自性を理解した上で、介護に対する意欲と誇りが持てる。								
授業コマ数	テーマ			内容					
1	協働する多職種の機能と連携①			地域包括ケアシステムについて理解する					
2									
3	協働する多職種の機能と連携②			介護福祉士と他職種の専門性や役割と機能について理解する 1					
4									
5	協働する多職種の機能と連携③			介護福祉士と他職種の専門性や役割と機能について理解する 2					
6									
7	協働する多職種の機能と連携④			多職種連携・協働の必要性・目的・効果について学ぶ					
8									
9	協働する多職種の機能と連携⑤			介護実践の場で多職種連携・協働に求められる基本的な能力について学ぶ					
10									
11	協働する多職種の機能と連携⑥			多職種協働に求められるコミュニケーション能力について学ぶ					
12									
13	協働する多職種の機能と連携⑦			多職種連携・協働の実際について学ぶ					
14									
15	障害者総合支援法①			障がい者福祉における制度と施策の変遷について理解する					
16									
17	障害者総合支援法②			障がい者総合支援法の目的と基本理念・仕組みを確認する					
18									
19	介護従事者の安全①			働く人の健康や生活を守る法制度について理解する					
20									
21	介護従事者の安全②			介護労働の特性と健康問題について理解する					
22									
23	介護従事者の安全③			介護に従事する人の健康問題を知る					
24									
25	介護従事者の安全④			こころの健康問題について学ぶ					
26									
27	介護従事者の安全⑤			身体の健康問題について学ぶ					
28									
29	介護従事者の安全⑥			安心して働ける労働環境について考える					
30									

科目名		介護の基本 I	担当教員	湯村 恵里子		評価の方法	試験(筆記)	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、介護保険制度や対象者の理解について講義を行う。					受講態度	30%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修			授業形態	講義		授業時間数	30時間	
配当年次	1年				授業回数	30回			
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 第2版 3 介護の基本 I 最新・介護福祉士養成講座 第2版 4 介護の基本 II (中央法規出版) みんなで支える介護保険 (仙台市)								
授業概要	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解し、「介護を必要としている人」を、生活の観点から捉える。教科書を中心とし、グループディスカッションや介護予防や生きがいに繋がる生活体験を増やし、視覚教材なども取り入れ学習する。								
到達目標	①介護を必要としている人の個性や多様性を理解し、自立に向けた介護を実践するために、自立の意味や自己決定・自己選択・ICFの考え方、介護予防について十分な理解ができる。 ②介護を必要とする人の生きる意欲を引き出す生活環境や人間関係のあり方の意義や必要性がわかる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	福祉における自立支援		自立支援の考え方を理解をする						
2									
3	介護を必要とする人の理解①		高齢者の特徴や要介護者の理解をする①						
4									
5	介護を必要とする人の理解②		高齢者の特徴や要介護者の理解をする②						
6									
7	介護を必要とする人の理解③		高齢者の身体特性と介護予防をする						
8									
9	介護を必要とする人の理解④		高齢者の生活歴や時代背景を知る						
10									
11	介護福祉の基本原則① 自立支援の介護		介護福祉における自立支援の意義を事例で学ぶ (エンパワメント・ストレングス等)						
12									
13	介護福祉の基本原則② 自立支援の介護		介護におけるICFの捉え方を理解する①						
14									
15	介護福祉の基本原則③ 自立支援の介護		介護におけるICFの捉え方を理解する②						
16									
17	介護福祉の基本原則④ 自立支援の介護		自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する①						
18									
19	介護福祉の基本原則⑤ 自立支援の介護		自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解する②						
20									
21	介護福祉の基本原則⑥ 自立支援の介護		リハビリテーションの目的と従事する専門職の役割を知る						
22									
23	介護福祉の基本原則⑦ 自立支援の介護		自立支援と介護予防の概要を理解する①						
24									
25	介護福祉の基本原則⑧ 自立支援の介護		自立支援と介護予防の概要を理解する②						
26									
27	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①		フォーマルサービス・インフォーマルを理解する						
28									
29	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②		高齢者のためのフォーマルサービスの概要を知る						
30									

科目名		介護の基本Ⅱ		担当教員	湯村 恵里子		評価の方法	試験(筆記)	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、介護福祉サービスやリスクマネジメントについて講義を行う。							受講態度	30%
対象学科	介護福祉学科			開講時期	後期	単位数		2単位		
必修・選択	必修					授業時間数		30時間		
配当年次	1年			授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 第2版 3 介護の基本Ⅰ 最新・介護福祉士養成講座 第2版 4 介護の基本Ⅱ (中央法規出版) みんなで支える介護保険 (仙台市)									
授業概要	介護保険制度の下提供されている介護サービス(施設・在宅)を知り、施設の役割やケア内容を理解する。介護の専門職としての連携や介護者自身の健康管理について学ぶ。ビデオなどを通して、より具体的に体験することで、教科書の内容を深く理解する。									
到達目標	①介護を必要としている人の個性や多様性を理解し、自立に向けた介護を実践するために、自立の意味や自己決定・自己選択・ICFの考え方、介護予防について十分な理解ができる。 ②介護を必要とする人の生きる意欲を引き出す生活環境や人間関係のあり方の意義や必要性がわかる。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1 2	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①			介護問題と背景を事例を通して学ぶ						
3 4	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②			介護保険制度におけるサービスの種類 居宅サービスの種類と内容を知る①						
5 6	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③			介護保険制度におけるサービスの種類 居宅サービスの種類と内容を知る②						
7 8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ④			介護保険制度におけるサービスの種類 地域密着型サービスの種類と内容を知る①						
9 10	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤			介護保険制度におけるサービスの種類 地域密着型サービスの種類と内容を知る②						
11 12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥			介護保険制度におけるサービスの種類 施設サービスの種類と内容を知る						
13 14	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦			介護保険制度におけるサービスの種類 地域支援事業サービスの種類と内容を知る						
15 16	介護実践における様々な連携①			地域連携の意義と目的を知り地域連携に関わる機関の理解をする						
17 18	介護実践における様々な連携②			地域福祉に関わる組織・団体の役割を知る①						
19 20	介護実践における様々な連携③			地域福祉に関わる組織・団体の役割を知る②						
21 22	介護における安全確保とリスクマネジメント①			福祉サービスに求められる安全や安心について学ぶ						
23 24	介護における安全確保とリスクマネジメント②			身体拘束の弊害と法的整備を理解する						
25 26	介護における安全確保とリスクマネジメント③			リスクマネジメントの対策を理解する 非常災害時の対策・消費者対策						
27 28	介護における安全確保とリスクマネジメント④			介護福祉職に必要な感染に関する知識について学ぶ						
29 30	介護における安全確保とリスクマネジメント⑤			感染症対策との予防をするための具体的な方法を理解する 介護者の健康管理について学ぶ						

科目名		コミュニケーション技術 I		担当教員	野口 美雪		評価の方法	試験（筆記）	80%
実務経験 授業科目								受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数	2単位			
必修・選択	必修			授業形態	講義	授業時間数		30時間	
配当年次	1年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献	『最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版』（中央法規）								
授業概要	対人援助の基礎となる自己覚知や、人間関係の構築・調整といった部分で必要になるコミュニケーションの基礎について、演習をしながら身につけていく。								
到達目標	介護サービスの質の向上と、サービス利用者自身の生活の質の向上を図れる土台となるコミュニケーション関係が築けることを目的とする。介護サービスに必要なコミュニケーション能力を高めること、実際に役立つことを意識して授業を展開する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	介護におけるコミュニケーション①	介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する							
2									
3	介護におけるコミュニケーション②	コミュニケーションの基本、言語的・非言語的コミュニケーションについて学ぶ							
4									
5	介護におけるコミュニケーションの対象	介護福祉職の職務とコミュニケーションの特徴を理解する							
6									
7	介護における援助関係とコミュニケーション①	援助関係を意識した、対象者とのコミュニケーションを理解する							
8									
9	介護における援助関係とコミュニケーション②	援助関係を構築するための原則について学ぶ							
10									
11	コミュニケーションの基本技術①	話を聴く技法、「聞くこと」と「聴くこと」の違い、傾聴、よき聴き手になる条件について身につける							
12									
13	コミュニケーションの基本技術②	利用者の感情表現を察する技法、高齢者の感情表現の仕方、共感について学ぶ							
14									
15	コミュニケーションの基本技術③	利用者の納得と同意を得る技法を理解する							
16									
17	コミュニケーションの基本技術④	質問の技法、質問のはたらき、種類について学ぶ							
18									
19	コミュニケーションの基本技術⑤	相談・助言・指導の技法、介護職に求められる相談の技術について学ぶ							
20									
21	コミュニケーションの基本技術⑥	集団でのコミュニケーションの意義、パターンについて学ぶ							
22									
23	コミュニケーションの基本技術⑦	複数の利用者がある場面でのコミュニケーションについて学ぶ							
24									
25	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①	利用者と家族との協働関係の構築について学ぶ							
26									
27	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②	利用者や家族の意向を円滑に調整するためのコミュニケーション手順を理解する							
28									
29	まとめ	これまでの授業の振り返りとまとめ							
30									

科目名		生活支援概論	担当教員	①松根 ひろ子 ②高鳥 美奈子		評価の方法	試験（筆記）	90%
実務経験 授業科目	○	病院にて管理栄養士として就業、食事指導及び給食管理業務の他、小学校の肥満児教室、地域高齢者対象に講演等を定期的に行った。洋品店でのリフォーム、ヘルパー・訪問介護員養成に携わり生活支援のアドバイザーを務めた経験も活用している。					平常点 (課題提出・出席状況)	10%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位	
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		30時間	
配当年次	1年				授業回数	30回		
テキスト・参考文献	「生活支援の基礎を学ぶ」介護福祉看護実践のための家政学（建帛社） 2026 生活Navi（実教出版）							
授業概要	①介護と家政の関係を理解し、生活支援の方法を探る。 ②自立に向けた衣食住にかかわる知識と実践の方法を得る。							
到達目標	①生活・家事の知識を理解し、自分自身の生活に活かせる。②日常生活を送るために必要な衣・食・住等の支援について判断でき、提供する方法が分かる。							
授業コマ数	テーマ	内容						
1	生活支援の組織・連携	生活の理解、生活支援の考え方						
2		生活支援の組織と機能 その他の職種との連携						
3	生活支援と家事援助	生活援助の中の家事援助の目的と必要性						
4		家事援助の基本原則						
5	生活と衣服	自分の被服生活の振り返り 衣服のサイクルと管理方法						
6		寝具の役割と管理						
7	衣服生活	衣服管理の種類や時期・注意事項						
8								
9	高齢者・障害者と被服	身体状況と被服						
10		高齢者・障害者の生活と被服						
11	自立に向けた住環境の整備 ①住環境に関する理解	住まいの快適性						
12		よく眠れるための条件						
13	自立に向けた住環境の整備 ②室内環境の理解	ユニバーサルデザインの活用						
14		バリアフリー住宅						
15	住生活の管理	収納の工夫と方法						
16		収納計画						
17	清掃に対する理解 振り返り	場所別の清掃方法・汚れと洗剤						
18		ごみの捨て方 これまでの振り返り						
19	食生活の管理①	食品の分類						
20		食品成分表の使い方						
21	食生活の管理②	食品表示						
22		食物アレルギー						
23	食生活の管理③	食品の購入と保存						
24								
25	食生活の管理④	食の安全と食中毒						
26								
27	食生活の管理⑤	献立作成の方法						
28								
29	高齢者の食生活	加齢による心身の変化と介護食						
30								

科目名		生活・余暇支援技術		担当教員		佐藤 聡明		評価の方法	試験 (授業内課題)	70%
実務経験 授業科目									平常点	30%
対象学科		介護福祉学科		開講時期	後期	単位数	2単位			
必修・選択		必修		授業形態	演習	授業時間数	30時間			
配当年次		1年				授業回数	30回			
テキスト・参考文献		アイスブレーキングゲーム集（日本レクリエーション協会）。 お年寄りとコミュニケーションが深まる！楽しく盛り上がるレクリエーション100（ナツメ社） 童謡、唱歌、『懐かしの歌260曲』（西東社）								
授業概要		レクリエーション活動の社会的意義を理解させ、「楽しむ」という生活の支援を習得させる。								
到達目標		利用者の余暇生活の充実を目指した生活支援技術の判断・実践ができる。								
授業コマ数		テーマ		内容						
1	2	コミュニケーションワーク③		対象者との良好なコミュニケーション② (価値観の違い)						
3	4	目的に合わせたレクワーク③		目的に沿ったアクティビティの展開方法2 グループホーム（認知症の方）でのレクリエーション						
5	6	目的に合わせたレクワーク④		目的に沿ったアクティビティの展開方法3 ディサービス・ケアでのレクリエーション						
7	8	目的に合わせたレクワーク⑤		目的に沿ったアクティビティの展開方法4 障がいがある方へのレクリエーション						
9	10	目的に合わせたレクワーク⑥		目的に沿ったアクティビティの選択 クラフト作成②						
11	12	対象に合わせたレクワーク①		対象に合わせたアレンジ法1 財に合わせたアレンジ						
13	14	対象に合わせたレクワーク②		対象に合わせたアレンジ法2 アレンジの展開方法						
15	16	自立に向けた余暇の援助②		癒しのある生活②なつかしの歌演習						
17	18	自立に向けた余暇の援助③		癒しのある生活③なつかしの歌演習						
19	20	コミュニケーションワーク④		支援者同士の良好なコミュニケーション						
21	22	こころを動かすからだの動き⑦		高齢者（障害者）のレクリエーションプログラムの計画立案・安全管理について② ※グループワーク プログラム作成						
23	24	対象に合わせたレクワーク③		対象に合わせたアレンジ法3 ※グループワーク プログラム作成						
25	26	対象に合わせたレクワーク④		対象に合わせたアレンジ法4 ※グループ発表						
27	28	対象に合わせたレクワーク⑤		対象に合わせたアレンジ法5 ※グループ発表						
29	30	まとめ		復習とまとめ						

科目名		生活・介護支援技術 I	担当教員		①庄司香織②矢口 怜 ③永野淳子		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、介護現場で利用者の生活の支援を 実践した経験をもとに、生活支援に必要な技術や知識を活用する。						課題提出 ・受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数	4単位		出席率	10%
必修・選択	必修				授業時間数	60時間			
配当年次	1年		授業形態	演習	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 第2版 6 生活支援技術 I (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座 第2版 7 生活支援技術 II (中央法規)								
授業概要	ICFに基づく支援の視点で、事例を交えながら思考力・判断力・実践力を養う。 利用者の現状を観察し予測を立て予防の視点を学ぶ。								
到達目標	尊厳の保持や利用者の個性に配慮し、自立に向けた生活支援の判断・実践ができる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	生活支援の理解①		生活支援の基本的考え方・授業の概要(実習室の使用法、身だしなみ等)を学ぶ						
2	生活支援の理解②		生活状態の観察とアセスメント・本人を理解するためのICFの視点を理解する						
3	生活支援の理解③		利用者の思いを確認し健康状態や状況を把握し介護方法を理解する						
4	生活支援の理解④		身支度に関する介護技術の基本と根拠を学ぶ(介護者の手洗い、爪切り、整髪等)						
5	自立に向けた身じたくの介護①		居住環境の整備するための基本を知り、加齢変化にともなって注意が必要なことを理解する(明るさ・音等)①						
6	自立に向けた身じたくの介護②		居住環境の整備するための基本を知り、加齢変化にともなって注意が必要なことを理解する(住宅内事故の現状等)②						
7	自立に向けた環境整備①		ベッドメイキングの目的・寝具の種類と取り扱いを理解し技術を学ぶ(寝具のたたみ方等)①						
8	自立に向けた環境整備②		ベッドメイキングの目的・寝具の種類と取り扱いを理解し技術を学ぶ(シーツの作り方等)②						
9	自立に向けた環境整備③		ベッドメイキングの目的・寝具の種類と取り扱いを理解し技術を学ぶ(毛布・包布のたたみ方等)③						
10	自立に向けた環境整備④		ベッドメイキングの目的・寝具の種類と取り扱いを理解し技術を学ぶ(確認テスト等)④						
11	自立に向けた移動の介護①		移動の意義と目的・自立した移動のあり方について理解する① 自立した移動の一連の流れを学ぶ						
12	自立に向けた移動の介護②		移動の意義と目的・自立した移動のあり方について理解する② ボディメカニクスを応用した身体的負担が少ない介助方法を学ぶ						
13	自立に向けた移動の介護③		安全な歩行の支援方法を学ぶ(杖歩行等)						
14	自立に向けた移動の介護④		歩行のための環境と整備、福祉用具について学ぶ(障害や状態に応じた介助・段差、階段等)						
15	自立に向けた移動の介護⑤		車椅子での移動・移乗の支援方法を学ぶ(自立支援)①						
16	自立に向けた移動の介護⑥								
17	自立に向けた移動の介護⑦								
18	自立に向けた移動の介護⑧								
19	自立に向けた移動の介護⑨								
20	自立に向けた移動の介護⑩								
21	自立に向けた移動の介護⑪								
22	自立に向けた移動の介護⑫								
23	自立に向けた移動の介護⑬								
24	自立に向けた移動の介護⑭								
25	自立に向けた移動の介護⑮								
26	自立に向けた移動の介護⑯								
27	自立に向けた移動の介護⑰								
28	自立に向けた移動の介護⑱								
29	自立に向けた移動の介護⑲								
30	自立に向けた移動の介護⑳								

科目名	生活・介護支援技術 I	担当教員	①庄司香織②矢口 怜 ③永野淳子			評価の方法	試験(筆記)	70%
対象学科	介護福祉学科	開講時期	前期	単位数	4単位		課題提出 ・受講態度	20%
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数		60時間	出席率
配当年次	1年	授業回数			60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	自立に向けた移動の介護⑥	車椅子での移動・移乗の支援方法を学ぶ(障害や状態に応じた介助・段差、坂道、エレベーター等)②						
33 34	自立に向けた移動の介護⑦	移動の介護における多職種との連携する意味を理解する						
35 36	自立に向けた移動の介護⑧	事例検討を通し、利用者の状態に応じ安心して移動・移乗できる支援を考える。						
37 38	自立に向けた更衣の介護①	更衣の意義と目的・自立した更衣のあり方について理解する						
39 40	自立に向けた更衣の介護②	自立した更衣の一連の流れを学ぶ						
41 42	自立に向けた更衣の介護③	利用者の状態に応じた更衣の介護を学ぶ①						
43 44	自立に向けた更衣の介護④	利用者の状態に応じた更衣の介護を学ぶ②						
45 46	自立に向けた更衣の介護⑤	事例検討を通し、利用者の状態に応じ安心して更衣できる支援を考える						
47 48	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	入浴の意義と目的・自立した更衣のあり方について理解する 自立した入浴の一連の流れを学ぶ						
49 50	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	安心、安全、安楽な入浴の準備や技法について学ぶ						
51 52	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	利用者の状態に応じた入浴の介助方法を学ぶ①						
53 54	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	利用者の状態に応じた入浴の介助方法を学ぶ②						
55 56	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	入浴の介護における多職種連携の必要性について理解する						
57 58	福祉用具の意義①	生活支援における福祉用具の意義を理解する 福祉用具の種類・公的制度における福祉用具サービスの重要性を知る						
59 60	福祉用具の意義②	適切な福祉用具を選ぶための視点を見学を通して理解する						

科目名		生活・介護支援技術Ⅱ	担当教員		①庄司香織②矢口 怜 ③永野淳子		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、介護現場で利用者の生活の支援を 実践した経験をもとに、生活支援に必要な技術や知識を活用する。						課題提出 ・受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数	4単位		出席率	10%
必修・選択	必修				授業時間数	60時間			
配当年次	1年		授業形態	演習	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 第2版 6 生活支援技術Ⅰ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座 第2版 7 生活支援技術Ⅱ(中央法規)								
授業概要	ICFに基づく支援の視点で、事例を交えながら思考力・判断力・実践力を養う。 利用者の現状を観察し予測を立て予防の視点を学ぶ。								
到達目標	尊厳の保持や利用者の個性に配慮し、自立に向けた生活支援の判断・実践ができる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	自立に向けた食事の介護①		食事の意義と目的・自立のあり方について理解する						
2									
3	自立に向けた食事の介護②		自立した食事の一連の流れを学ぶ 利用者の尊厳を遵守した食事の介護の留意点を理解する						
4									
5	自立に向けた食事の介護③		利用者の状態に応じた食事の介助方法を学ぶ①						
6									
7	自立に向けた食事の介護④		利用者の状態に応じた食事の介助方法を学ぶ②						
8									
9	自立に向けた食事の介護⑤		利用者の状態に応じた食事の介護を学ぶ③ 誤嚥予防、脱水等における支援方法を理解する						
10									
11	自立に向けた食事の介護⑥		食事の介護における多職種連携の必要性を理解する						
12									
13	自立に向けた身じたくの介護①		口腔ケアの意義と目的のあり方について理解する						
14									
15	自立に向けた身じたくの介護②		口腔ケアの清拭法・義歯の清掃法の介助方法を学ぶ						
16									
17	自立に向けた身じたくの介護③		口腔ケアの実施と留意点・利用者の状態に応じた口腔の介護を学ぶ						
18									
19	自立に向けた排泄の介護①		自立した排泄について理解する(排泄のしくみ等) 自立した排泄の一連の流れを学ぶ						
20									
21	自立に向けた排泄の介護②		排泄のための環境と整備、排泄用具について理解する						
22									
23	自立に向けた排泄の介護③		利用者の状態に応じた排泄の介助方法を学ぶ①(トイレ)						
24									
25	自立に向けた排泄の介護④		利用者の状態に応じた排泄の介助方法を学ぶ② (ポータブルトイレ)						
26									
27	自立に向けた排泄の介護⑤		利用者の状態に応じた排泄の介助方法を学ぶ③ (ポータブルトイレ)						
28									
29	自立に向けた排泄の介護⑥		利用者の状態に応じた排泄の介助方法を学ぶ④ (尿器、差し込み便器)						
30									

科目名	生活・介護支援技術Ⅱ	担当教員	①庄司香織②矢口 怜 ③永野淳子			評価の方法	試験(筆記)	70%
対象学科	介護福祉学科	開講時期	後期	単位数	4単位		課題提出 ・受講態度	20%
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数			
配当年次	1年	授業回数			60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	自立に向けた排泄の介護⑦	利用者の状態に応じた排泄の介助方法を学ぶ⑤(おむつ)						
33 34	自立に向けた排泄の介護⑧	排泄障害(排尿障害、排便障害)への対応について理解する						
35 36	自立に向けた排泄の介護⑨	排泄に関する様々な介助方法を理解する 排泄の介護における多職種連携の必要性について理解する						
37 38	自立に向けた移動の介護①	体位変換の介護方法を学ぶ① (上方移動・水平移動の介助、福祉用具の活用)						
39 40	自立に向けた移動の介護②	体位変換の介護方法を学ぶ② (仰臥位から側臥位の対面法・背面法)						
41 42	自立に向けた移動の介護③	体位変換の介護方法を学ぶ③ (起き上がりから端座位への利用者の状態に応じた介助)						
43 44	自立に向けた移動の介護④	体位変換の介護方法を学ぶ④ (端座位から立位への利用者の状態に応じた介助)						
45 46	事例検討①	座位からの杖歩行介助方法を習得する① (利用者の状態に応じた介助)						
47 48	事例検討②	更衣から立ち上がりの介助方法を習得する① (利用者の状態に応じた介助)						
49 50	事例検討③	ベッドから車いすへの移乗介助方法を習得する① (利用者の状態に応じた介助)						
51 52	事例検討④	ベッドから車いすへの移乗介助② (利用者の状態に応じた介助)						
53 54	事例検討⑤	ベッドからポータブルトイレの介助方法を習得する						
55 56	事例検討⑥	ベッド上でのおむつ交換の介助方法を習得する						
57 58	実技試験	事例検討①～⑥より試験を実施し理解を深める						
59 60	実技試験	事例検討①～⑥より試験を実施し理解を深める						

科目名		介護過程 I	担当教員	①庄司香織②矢口 怜 ③永野淳子		評価の方法	試験（筆記）	80%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、介護の現場で利用者の介護過程について経験を積み、生活支援の実践を行う上での思考過程を講義する。						課題提出 ・受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『最新 介護福祉士養成講座9 介護過程』（中央法規）								
授業概要	介護過程の意義をふまえ生活支援に必要な介護過程の展開の視点を理解して、介護過程の基本となる情報収集を習得する。								
到達目標	介護における介護過程の重要性を理解して、介護実習を通して介護過程の基礎を身につける。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1 2	介護過程とは	1	介護過程の意義・目的について説明し、介護福祉士の専門性を活かすためには科学的な根拠が必要不可欠であることを理解する						
3 4	介護過程とは	2	生活支援における介護過程の必要性や事例検討について理解する						
5 6	介護過程の理解	1	ICF（国際生活機能分類）の基本概念と目的について説明する						
7 8	介護過程の理解	2	ICF（国際生活機能分類）の基本概念と目的について説明を加え、事例のプリントを配布しそれをもとに考える						
9 10	介護過程の理解	3	ICF（国際生活機能分類）を活用した情報収集を理解する						
11 12	介護過程の理解	4	アセスメントの4つ視点にもとづく情報の解釈・関連づけ・統合化について理解する						
13 14	介護過程の理解	5	本校の記録用紙（アセスメント用紙）を渡し、説明を行う。						
15 16	介護過程の理解	6	アセスメント実践① アセスメントを行う上での各項目ごとの専門用語や判定基準などを調べ記入する						
17 18	介護過程の理解	7	アセスメント実践② アセスメントを行う上での各項目ごとの専門用語や判定基準などを調べ記入する						
19 20	介護過程の理解	8	アセスメント実践③ 学生たちが記入した専門用語や判定基準など解説を行う						
21 22	介護過程の実践	事例検討 1	事例演習 利用者の理解① 情報収集を行い、記録する						
23 24	介護過程の実践	事例検討 2	事例演習 利用者の理解② 情報収集を行い、記録する						
25 26	介護過程の実践	事例検討 3	事例演習 利用者の理解③ グループワーク：情報の解釈・関連づけ・統合化について理解する						
27 28	介護過程の実践	事例検討 4	事例演習 利用者の理解④ グループワーク：情報の解釈・関連づけ・統合化について理解する						
29 30	介護過程の理解	9	介護実習 I 受持ち利用者アセスメント アセスメントの振り返り（情報の解釈・関連づけ・統合化）を行う						

科目名		介護総合演習 I		担当教員		評価の方法	試験(筆記)	80%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、現場経験を活かして介護実習に必要な態度や心構え、介護福祉士に必要な記録方法などを教授する。						課題提出 ・受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		40時間		
配当年次	1年		授業形態	演習	授業回数	40回			
テキスト・参考文献	最新 介護福祉士養成講座 第2版 10 介護総合演習・介護実習 (中央法規) 介護実習指導要領 (仙台医療福祉専門学校)								
授業概要	介護実践に必要な知識や技術を体験して理解を深め、介護実習を通して実践力を高める。また、実習先などの外部に出向き社会人としてのマナーを理解する。								
到達目標	介護実践を行う上で、介護福祉士として必要な基本姿勢や態度を習得することができる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1 2	介護実習の概要		介護総合演習とは 介護実習の概要・目的 本校の介護実習における目標						
3 4	介護実習について 1		介護福祉士養成校における介護実習の意義や目的を学ぶ						
5 6	介護実習について 2		高齢者施設における介護福祉士の仕事のイメージ DVD「介護福祉士の仕事⑤『伊・ピ』」「まちのひかり」						
7 8	介護実習について 3		介護実習に必要な実習生としての基本姿勢や心構えを身につける						
9 10	介護実習 I の基本的理解 1		介護福祉士における通所介護と通所リハビリテーションの機能やサービス内容の違いについて						
11 12	介護実習 I の基本的理解 2		介護記録に必要な実習日誌の記入方法について 実習用個人票の作成 実習施設交通機関の調査						
13 14	介護実習の実践的理解 1		生活体験 介護福祉士に必要な生活支援について ①						
15 16	介護実習の実践的理解 2		生活体験 介護福祉士に必要な生活支援について ②						
17 18	介護実習の実践的理解 3		実習シュミレーション① コミュニケーション方法・職員との連携(報告・連絡・相談)						
19 20	介護実習の実践的理解 4		実習シュミレーション② 実習生同士の協力性・基本的な実習態度や取り組む姿勢						
21 22	知識と技術の統合 1		介護実習 I (通所) の振り返り 実習生としての取り組み状況や介護の理解について						
23 24	介護実習 I の基本的理解 3		様々な施設種類における介護実習 I の施設①						
25 26	介護実習 I の基本的理解 4		様々な施設種類における介護実習 I の施設②						
27 28	介護実習 I の基本的理解 5		介護実習 I の概要を学び介護福祉士の仕事について理解 実習用個人票の作成 実習施設交通機関の調査						
29 30	介護実習 I の基本的理解 6		介護実習 I における本校の実習目標を理解 記録について学ぶ						
31 32	介護実習 I の基本的理解 7		入所施設における実習日誌について 日々の実習目標の立て方						
33 34	介護実習 I の基本的理解 8		介護におけるカンファレンスの理解 介護福祉士の役割や多職種との連携について						
35 36	実習 I オリエンテーション 1		実習事前打ち合わせ① (施設毎に施設の場所確認)						
37 38	介護実習 I (入所) 帰校日		学校での実習指導 (日誌・アセスメント用紙について)						
39 40	知識と技術の統合 2		介護実習 I (入所) を終えて 実習の取り組み姿勢や介護過程について振り返る						

科目名		介護総合基礎演習	担当教員		①佐藤正宏 ②矢口 伶		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、介護実践における適切な記録や人間性を養う演習を行う。						出席率	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数	1単位			
必修・選択	必修				授業時間数	20時間			
配当年次	1年		授業形態	演習	授業回数	20回			
テキスト・参考文献		必要に応じてプリント配布							
授業概要		介護記録の意義が理解でき、演習を通し、介護実践における適切な記録の書き方を学ぶ。グループワーク等を通して実践力や精神力を養う。							
到達目標		介護の実践における記録の重要性を理解でき、“その人らしい生活”“利用者や家族が望む生活”を支えるための記録が書けるようになる。また、演習を通して介護福祉士に大切な人間力を身につける。							
授業コマ数	テーマ		内容						
1	記録の基礎知識 1		5W1Hなどの文章構成の基礎						
2									
3	記録の基礎知識 2		介護記録の記入方法①						
4									
5	記録の基礎知識 3		介護記録の記入方法②						
6									
7	記録の基礎知識 4		介護記録の記入方法③ (事例検討)						
8									
9	記録の基礎知識 5		介護記録の記入方法③ (事例検討)						
10									
11	記録の基礎知識 6		専門用語と記録について (第三者への記録)						
12									
13	介護と伝統文化 1		伝統文化に触れ日本の文化を理解①						
14									
15	介護と伝統文化 2		伝統文化に触れ日本の文化を理解②						
16									
17	利用者に適した活動 1		グループワークを通してまとめ、発表を行う①						
18									
19	利用者に適した活動 2		グループワークを通してまとめ、発表を行う②						
20									

科目名		介護実習 I		担当教員		①庄司香織②矢口 怜③永野淳子 ④湯村恵里子⑤佐藤正宏⑥高橋 香 ⑦古戸洋子⑧千葉ちあき⑨村崎嘉成		評価の方法	施設評価	50%
実務経験 授業科目	○	現場での実務経験があり、介護教員講習会修了の専任教員が、実習指導者と連携を図りながら介護福祉士として必要な技術や知識を実践的に学ぶための指導を行う。							担当教員評価	50%
対象学科	介護福祉学科			開講時期	通年	単位数	3単位			
必修・選択	必修			授業形態	実習	授業時間数	120時間			
配当年次	1年					授業回数	15日間			
テキスト・参考文献		介護実習指導要領（仙台医療福祉専門学校）								
授業概要		高齢者や障がいのある方々が生活する施設において、実習指導者のもと利用者と関わり、学内で学んだ知識・技術等を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。								
到達目標		実習施設の概要を理解する。職員と利用者の関わり方や対人援助における接遇のあり方を学ぶ。介護福祉士の役割を理解する。								
授業コマ数		内容								
入所実習12日間 (96時間)		<p>【介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障がい者支援施設にて実習】</p> <p>1 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、地域における生活支援の実際、生活支援技術の確認、多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ※医療との連携のもとで行われる医療的ケアを見学し、必要な知識・技術を習得する。</p> <p>2 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者毎の介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の実践を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>『介護実習指導要領より抜粋』</p> <p>I 施設の機能と介護福祉の役割を理解する。 1 施設概要を理解する 2 施設職員と利用者の関わり方を学ぶ 3 各種記録の目的と活用方法の実際を学ぶ。 4 施設の運用プログラムに参加し、処遇全般について理解する。 5 地域社会と施設の関連について理解する。 6 介護福祉専門職として自己覚知の推進をはかる。</p> <p>II 個別介護過程展開の実際を学ぶ。 1 利用者とは基本的な人間関係を形成する。 2 利用者を理解し、ニーズを把握する。 3 個別援助計画の立案・実施・評価を行う。</p> <p>III 生活支援技術の習得をする。 1 日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。 2 個人及び障害のレベルに応じた適正な生活支援技術を学ぶ。 3 住生活設備・各種介護機器の活用方法を学ぶ。 ※医療的ケアを見学し、安全・適切な技術を学ぶ。</p>								
通所実習3日間 (24時間)		<p>①実際の現場の職員の動きや利用者の生活を見て・聞いて・触れて平面的な理解から立体的にイメージを掴む。</p> <p>②介護活動の基本となるコミュニケーションを中心に利用者に関わる体験の中から対人援助における基本的な接遇のあり方（態度・言動等）を学ぶ。また、利用者の生活上の課題を見出す1つの手段としてコミュニケーションの重要性に気付く。</p> <p>③日常の介護活動のいろいろな場面を見学や補助的な関りを中心に体験する。</p>								

科目名		人間の成長と発達	担当教員	三浦 順子		評価の方法	筆記試験	70%	
実務経験 授業科目	○	看護師資格取得後5年以上の実務経験を有した教員が、人間の成長と発達や疾患と症状について講義する。					提出物 確認テスト	20%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数		2単位	出席状況	10%
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		30時間		
配当年次	1年				授業回数		30回		
テキスト・参考文献	新・介護福祉養成講座 11 発達と老化の理解 (中央法規出版) 介護のための医学知識 (ナツメ社)								
授業概要	誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を、自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせながら学習する。生涯発達論・こころのしくみ・からだのしくみとの関連させた授業展開にする。								
到達目標	成長と発達の知識が、各段階における利用者の自立に向けた生活支援技術の根拠として捉えることができるようになる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1 2	人間の成長と発達の基礎的理解 ①		人間の成長と発達 特に高齢者のライフサイクルとこころとからだの変化について考える。 100年年表作成①						
3 4	人間の成長と発達の基礎的理解 ②		高齢者の生きてきた時代を知る 100年年表作成② DVD『昭和の扉～美しき昭和の伝承遊び・伝統食・伝統衣服～』						
5 6	人間の成長と発達の基礎的理解 ③		社会からみた老年期・老年期の発達課題・老年期の生活基盤を考える DVD『つみきのいえ』より老化の概念・身体機能の特徴を知る						
7 8	人間の成長と発達の基礎的理解 ④		老化の概念・身体機能の特徴② 高齢者の体の不調や訴えについて知る						
9 10	人間の成長と発達の基礎的理解 ⑤		『死』と『死のプロセス』 ① DVD『幸せな時間』より死や老いに対する葛藤や受容の様子を知る						
11 12	人間の成長と発達の基礎的理解 ⑥		『死』と『死のプロセス』 ② 生と死(『安楽死と尊厳死』)を考える						
13 14	老年期の発達と成熟 高齢者の健康		高齢者に多い疾患の特徴と主な症状・知的・認知機能・精神的機能の老化を理解する。						
15 16	老化に伴うからだの変化と日常生活		心身機能の老化の日常生活への影響・機能維持、症状と日常生活の留意点・老年症候群・廃用症候群について理解する。						
17 18	人の主要な疾患と症状 ①		脳血管性疾患と神経系疾患①：脳神経のしくみがわかり、高齢者に多い脳血管性疾患と神経系疾患、生活上の留意点等を理解する。						
19 20	人の主要な疾患と症状 ②		脳血管性疾患と神経系疾患②：脳血管疾患と生活習慣病の関係を理解する。循環器疾患：循環器のしくみがわかり、疾患や生活上の留意点等を理解する。呼吸器疾患：呼吸器のしくみがわかり、疾患・生活上の留意点等を理解する。						
21 22	人の主要な疾患と症状 ③								
23 24	人の主要な疾患と症状 ④		消化器疾患：消化器のしくみがわかり、疾患や生活上の留意点を理解する。泌尿器疾患：排泄のしくみがわかり、疾患や障害、生活上の留意点を理解する。生殖器疾患：生殖器のしくみ、加齢による変化がわかる。						
25 26	人の主要な疾患と症状 ⑤								
27 28	人の主要な疾患と症状 ⑥		内分泌疾患：内分泌の働き、からだへの影響がわかる。						
29 30	保健・医療システム まとめ		感染症と予防を理解する。病気のある高齢者と関わる介護福祉士と保健医療職の連携のあり方を理解する。						

科目名		老化に伴うこころのケア	担当教員		佐藤 正宏		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として業務に従事した経験のある教員が、障害や高齢者の理解を基本に老化の過程、老化による心身の変化について講義を行う。						出席率	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数	2単位			
必修・選択	必修			授業形態	講義	授業時間数		30時間	
配当年次	1年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献		最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 (中央法規出版)							
授業概要		老化による心身の変化について理解するとともに、老化という変化を多面的にとらえることが出来るよう、事例等を用いて学ぶ。							
到達目標		老化の仕組みの理解。老化による心身の変化の理解を日常生活とリンクさせながら実習等も含めて考える力を身に着ける							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	導入、動機づけ、学習内容の説明	老化のイメージの共有、老化が及ぼす心理的影響について考える							
2									
3	老化に伴う心理的な変化と生活への影響①	プロダクティブエイジング、アクティブエイジング、エイジズム							
4									
5	老化に伴う心理的な変化と生活への影響②	『不活発性』から高齢者の心理、身体的変化を学ぶ							
6									
7	身体的機能の低下と日常生活への影響①	老化による『視覚機能低下』について学ぶ							
8									
9	身体的機能の低下と日常生活への影響②	老化による『聴覚機能低下』について学ぶ							
10									
11	老年期におけるパーソナリティの変化	ライチャード、コスタの学説を基に考え方を学ぶ (回想法、ビックファイブ理論)							
12									
13	老化に伴う社会的な変化と生活への影響①	老いの価値観、測定尺度等について学ぶ							
14									
15	高齢者への心理的援助① (介護保険サービス)	事例を基に、グループワークで介護保険サービスをプランニングしどのような心理的影響、身体的配慮をしたのかを発表する							
16									
17	高齢者への心理的援助②	病気(認知症、うつ病など)やライフステージでのイベントなど様々な場面での高齢者の気持ちを理解する							
18									
19	事例から学ぶ	高齢者介護における介護者、要介護者の心理変化(DVD鑑賞)							
20									
21	老化に伴う社会的な変化と生活への影響②	世帯構造における将来の課題について考える (老々介護、介護離職等)							
22									
23	老化に伴う社会的な変化と生活への影響③	世帯構造における将来の課題について考える (高齢者の就労状況)							
24									
25	高齢者と健康・健康長寿に向けて①	平均寿命、健康寿命について考える							
26									
27	高齢者と健康・健康長寿に向けて②	廃用症候群、老年症候群について							
28									
29	学習のまとめ	定期試験、国家試験に向けてのまとめ							
30									

科目名		認知症の理解 I	担当教員	国吉 奨		評価の方法	試験(筆記)	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、認知症の方の生活支援の経験を活かして、介護福祉士に必要な認知症の専門知識や制度などを教授する。						出席	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位	課題	10%
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数		30回		
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 (中央法規)								
授業概要	認知症高齢者の介護について、医学的側面から見た認知症の基礎や認知症に伴うこころとからだの変化について理解する。								
到達目標	①認知症によって起こる心身機能の変化について理解する。 ②認知症の病気やその特徴、中核症状、周辺症状を理解し、そこから生じる日常生活への影響についてイメージできるようになる。 ③これまでの生活史と今の様子から認知症のある人の尊厳について理解する								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	認知症の人の生きる世界		授業の概要 認知症の生活障害と症状の全体像						
2	認知症を取り巻く状況 1		認知症についての歴史的变化・定義・特徴						
3	認知症を取り巻く状況 2		認知症高齢者の現状と今後に必要なこと						
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 1		脳のしくみ アルツハイマー型認知症の脳の変化と特徴						
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 2		血管性認知症の脳の変化と特徴						
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 3		レビー小体型認知症の脳の変化と特徴						
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 4		前頭側頭型認知症の脳の変化と特徴						
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 5		認知症の中核症状の種類と違い①						
9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 6		認知症の中核症状の種類と違い②						
10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 7		認知症の行動・心理症状の種類と内容①						
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 8		認知症の行動・心理症状の種類と内容②						
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 9		認知症と間違えられやすい症状の理解						
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 10		認知症の人とのこころについて理解する						
14	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 11		認知症の診断方法と治療方法について						
15	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 12		認知症の予防について						

科目名		障害の理解 I		担当教員	庄司 香織		評価の方法	定期考査	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある教員が、障害者の基礎的な理解が深まり、障害によって生活にどのように影響しているのか講義を行う。							課題提出 ・受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科			開講時期	後期	単位数		2単位	出席状況	10%
必修・選択	必修					授業時間数		30時間		
配当年次	1年			授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『最新・介護福祉士養成講座 14』障害の理解（中央法規出版）・介護福祉士国試ナビ（中央法規出版）									
授業概要	障害者福祉の歴史を振り返り、障害のある人の心理や身体状況、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。									
到達目標	障害者の歴史（背景）や、現在の障害を取り巻く環境や制度について、正しい知識を身に付けることができる。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	障害の理解 オリエンテーション			障害の捉え方/漢字の意味や障害者に対するイメージなど学生に問い、障害者の歴史や制度などにも触れ、「障害の理解」という科目の内容を理解する						
2										
3	障害の概念と障害者福祉の基本理念1			ICIDHからICFへの変遷（医学・社会・統合モデル）を理解する						
4										
5	障害の概念と障害者福祉の基本理念2			ICFの構成要素について理解する						
6										
7	障害の概念と障害者福祉の基本理念3			障害者基本法（身体障害・知的障害・発達障害・精神障害）について理解する						
8										
9	障害の概念と障害者福祉の基本理念4			世界的に広まったノーマライゼーションの理念について理解する。						
10										
11	障害の概念と障害者福祉の基本理念5			リハビリテーション・エンパワメントなどの専門用語について説明し、問題を解きながら理解を深める						
12										
13	障害の概念と障害者福祉の基本理念6			障害者総合支援法（障害保健福祉施策の歴史）を理解する						
14										
15	障害の概念と障害者福祉の基本理念7			障害者総合支援法と介護保険制度の違いについて理解する						
16										
17	障害者福祉の歴史 1			日本ばかりではなく、世界的な福祉の歴史を知るために、教科書や国試ナビを見ながら、年表を完成させる						
18										
19	障害者福祉の歴史 2			日本ばかりではなく、世界的な福祉の歴史を知るために、教科書や国試ナビを見ながら、年表を完成させる						
20										
21	連携と協働 1			地域のサポート体制について理解する						
22										
23	連携と協働 2			チームアプローチ（医療従事者・多職種）の必要性や専門性の違いについて理解する						
24										
25	家族への支援 1			事例：家族や障害のある方の生活についてどのような支援が必要か考える。						
26										
27	家族への支援 2			家族の介護負担軽減（公的なサービスの活用）について理解する						
28										
29	障害ある人の理解			障害のある人の支援 授業のまとめ（国家試験対策）						
30										

科目名		からだのしくみ	担当教員		高橋 香		評価の方法	筆記試験	70%
実務経験 授業科目	○	看護師資格取得後5年以上の実務経験を有した教員が、人体のしくみ（解剖・生理）について講義する。						確認テスト 提出物	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数	2単位		出席状況	10%
必修・選択	必修			授業形態	講義	授業時間数		30時間	
配当年次	1年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献	新・介護福祉養成講座 11 こことからだのしくみ（中央法規出版） からだからケアがわかる本（中央法規出版）								
授業概要	人体を構成する細胞・器官・臓器等について名称や機能について学ぶ。また、連携に必要な共通専門用語についても理解できる。								
到達目標	人体の構造や機能についての基本的な知識を学ぶことで、介護の視点からいつもと異なる利用者の生活状態に気づくことができるようになる。また他専門職種と連携できる実践能力が習得できる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	からだのしくみ①		心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみがわかる。						
2									
3	からだのしくみ②		生活の中の基本的な姿勢と姿勢の名称がわかる。生活習慣、加齢による姿勢の影響を知る。						
4									
5	人体の区分		人体の区分を表す基本用語・体の名称がわかる。						
6			ボディメカニクスが理解できる。						
7	人体の基本		人体を構成する細胞・組織・器官・器官系の働きがわかる。						
8									
9	人体の構造と機能 (骨格・筋肉系)		骨格系・筋肉系の構造と機能（骨の名称・骨折の多い部位・動き）がわかる。						
10									
11	人体の構造と機能 (消化器系①)		上部消化器系の構造と機能（摂食・咀嚼・嚥下の働き・嚥下音）がわかる。						
12									
13	人体の構造と機能 (消化器系②)		下部消化器系の構造と機能（排泄のしくみ）がわかる。						
14									
15	人体の構造と機能 (呼吸器系)		呼吸器系の構造と機能（環境整備との関係・呼吸音）がわかる。						
16									
17	人体の構造と機能 (循環器系①)		血液系・心臓の構造と機能がわかる。バイタルサイン①：バイタルサインって何？機器の使い方。からだの発する音を知る。						
18									
19	人体の構造と機能 (循環器系②)		循環器系の構造と機能がわかる。バイタルサイン②：測定してみよう。成人の平均値を理解する。						
20									
21	人体の構造と機能 (感覚器系)		感覚器系の構造と機能（目・耳・皮膚・清潔との関係）がわかる。						
22									
23	人体の構造と機能 (脳神経系①)		脳の構造と機能・神経系の構造と機能を知る。 麻痺や障害、神経症状がわかる。						
24									
25	人体の構造と機能 (脳神経系②)								
26									
27	人体の構造と機能 (腎泌尿器系・生殖器)		腎・泌尿器系の構造と機能（排泄のしくみ・尿失禁・男女の身体特徴）がわかる。						
28									
29	人体の構造と機能 (内分泌系) まとめ		内分泌系の構造と機能がわかる。 復習とまとめ						
30									

科目名		こころのしくみ	担当教員		高橋 泰徳		評価の方法	筆記試験	70%	
実務経験 授業科目								出席状況	20%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数	2単位		受講態度	10%	
必修・選択	必修			授業形態	講義	授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業回数			30回				
テキスト・参考文献	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ（中央法規出版）									
授業概要	求められる介護福祉士像を意識し、介護実践に必要な観察力、判断力の根拠となる心のしくみとはたらきの基礎を学ぶ。									
到達目標	心の構造と機能について、対象者の身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための基礎知識を身につける。									
授業コマ数	テーマ	内容								
1	こころのしくみについて	心のしくみとはたらきが日常生活に与える影響と、その基礎知識を習得する意義を理解する。								
2										
3	こころのしくみとはたらき①	心のしくみと価値観の相違を理解する。								
4										
5	こころのしくみとはたらき②	こころの健康とは何か考える。								
6										
7	こころのしくみとはたらき③	健康と加齢、老化の特性を理解する。								
8										
9	こころのしくみとはたらき④	寿命とこころの変容の関係を理解する。								
10										
11	こころのしくみとはたらき⑤	人間の基本的欲求について理解する。								
12										
13	こころのしくみとはたらき⑥	自己概念を理解し、自他の感情について考える。								
14										
15	こころのしくみとはたらき⑦	自己実現と尊厳・生きがいの関係について考える。								
16										
17	こころのしくみとはたらき⑧	こころの発達理論に関する諸理論について理解する。								
18										
19	こころのしくみとはたらき⑨	脳のしくみと機能について理解する。								
20										
21	こころのしくみとはたらき⑩	学習・記憶・思考のしくみについて理解する。								
22										
23	こころのしくみとはたらき⑪	感情・情動・意欲のしくみについて理解する。								
24										
25	こころのしくみとはたらき⑫	要介護者のこころを動かす手法について考える。								
26										
27	こころのしくみとはたらき⑬	高齢者、障害者（児）の心情を理解する。								
28										
29	まとめ	学習内容をふりかえり、理解の確認と専門性の構築を図る。								
30										

科目名	こころとからだのしくみ I		担当教員	佐藤 聡明		評価の方法	試験 (授業内 課題)	70%	
実務経験 授業科目							平常点	30%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	アイスブレーキングゲーム集 (日本レクリエーション協会) お年寄りとコミュニケーションが深まる! 楽しく盛り上がるレクリエーション100 (ナツメ社) 童謡、唱歌、『懐かしの歌260曲』 (西東社)								
授業概要	介護サービスを提供する際の根拠・、創意工夫・応用する力となる基礎知識・関係性を学ぶ。								
到達目標	こころのしくみ・からだのしくみで学んだことが生活の中でどのように影響しているのか考え理解する。また自立支援に必要な介護実践へ創意工夫し実践できる。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	コミュニケーションワーク①	オリエンテーション							
2		レクリエーションとは							
3	レクリエーションの基礎理論①	レクリエーション支援の考え方①							
4		(ホスピタリティ、メラビアンの法則、パーバル・ノンパーバル)							
5	こころを動かすからだの動き①	アイス・ブレーキング手法と実践							
6									
7	レクリエーションの基礎理論②	レクリエーション支援の考え方②							
8		(一指示・一動作、同時発声・同時動作)							
9	こころを動かすからだの動き②	ホスピタリティトレーニングの実践							
10		(ラポール、ジョハリの窓、好意の返報性)							
11	レクリエーションの基礎理論③	レクリエーション支援の考え方③							
12		(ハードル設定、フロー理論)							
13	目的に合わせたレクワーク①	目的に沿ったアクティビティの選択							
14		クラフト作成①							
15	自立に向けた余暇の援助①	癒しのある生活①なつかしの歌演習							
16									
17	コミュニケーションワーク②	対象者との良好なコミュニケーション①							
18		(4つのタイプ別のコミュニケーション)							
19	レクリエーションの基礎理論④	レクリエーション支援の考え方④							
20		(説明のゲーム化、CSSプロセス)							
21	こころを動かすからだの動き③	高齢者(障害者)の生活課題とレクリエーションの関わり							
22		(マズローの5段階欲求)							
23	目的に合わせたレクワーク②	目的に沿ったアクティビティの展開方法①							
24		高齢者福祉施設でのレクリエーション(クラフト作成②)							
25	こころを動かすからだの動き④	高齢者(障害者)のレクリエーションプログラムの計画立案・安全管理について①							
26									
27	こころを動かすからだの動き⑤	レクリエーションの考え方、展開方法①							
28		※体育館、ニュースポーツなど							
29	こころを動かすからだの動き⑥	レクリエーションの考え方、展開方法②							
30		※体育館、ニュースポーツなど							

科目名		基礎ゼミ		担当教員		①永野淳子 ②矢口 怜 ③庄司香織		評価の方法	出席状況	50%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、現場でのチームワークや実践力を活かして介護福祉士に必要な人間力を養えるよう活動を通して教授する。							活動状況	50%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	1単位				
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数	30時間				
配当年次	1年				授業回数	30回				
テキスト・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイキングゲーム集（日本レクリエーション協会）</li> <li>・童謡、唱歌、懐かしの歌（CD付）（西東社）</li> <li>・お年寄りとコミュニケーションが深まる！楽しく盛り上がるレクリエーション100（ナツメ社）</li> </ul>									
授業概要	クラスや学科の行事を通して企画・運営・実施ができるよう力を養い、人間力を培っていく。									
到達目標	仲間と協力して、行事の企画・運営・実施に必要な実践力を身につける。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	人間力アップセミナーⅠ			人間力アップセミナーの目的を確認 2年生による企画運営の「1年生歓迎会」に参加し、学科の交流を図るとともに行事（イベント）等の流れ（企画・実施・反省・考察）について学ぶ。 自ら考える力・自ら動く力・協力する力を培う。						
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11	人間力アップセミナーⅡ			1年生による「2年生を送る会」を実施し、2年生にとって思い出となる会の企画・運営をし、その後、反省・考察を図り次につなげる。 1年間で培った人間力を、発揮する場とする。						
12										
13										
14										
15										
16	人間力アップセミナーⅢ			校外活動 芸術鑑賞や体験・講話等を通して、日頃携わる機会の少ない学生に対して実施し、触れることや感じることを、考えることから、感性を磨く。						
17										
18										
19										
20										
21	人間力アップセミナーⅣ			校外活動 芸術鑑賞や体験・講話等を通して、日頃携わる機会の少ない学生に対して実施し、触れることや感じることを、考えることから、感性を磨く。						
22										
23										
24										
25										
26	人間力アップセミナーⅤ			校外活動 芸術鑑賞や体験・講話等を通して、日頃携わる機会の少ない学生に対して実施し、触れることや感じることを、考えることから、感性を磨く。						
27										
28										
29										
30										

科目名		医療的ケアの基礎	担当教員	高橋 香		評価の方法	筆記試験	70%	
実務経験 授業科目	○	5年以上の実務経験のある看護師であり、医療的ケア教員講習会の修了者					授業評価	20%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数		1単位	出席状況	10%
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		20時間		
配当年次	1年				授業回数		20回		
テキスト・参考文献	新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア（中央法規）								
授業概要	介護福祉士が、医療的ケアを行うことになった背景を理解した上で、安全かつ適切に行う為の知識を関連科目と合わせて学ぶ。 医療職との協働・連携の重要性を理解し、その中で介護福祉士の役割を学ぶ。								
到達目標	利用者の尊厳を重視した、安全で適切な「医療的ケア」が実践できる様、介護・医療の倫理をふまえ、「自己決定の権利」「個人情報の保護」「本人家族に対する説明と同意の必要性」が理解できる。 医療保険・介護保険に関する制度等について学び、医療行為に関する法律・医療的ケアの位置づけ・チーム医療（構成職種等）を学び、医療職と介護職の協働・連携について理解できる。 安全に喀痰吸引・経管栄養を提供する重要性を理解し、異常状態の観察と救急蘇生について理解できる。 感染対策の基本である「清潔・消毒・滅菌」を理解し、療養環境の整え方や対応について理解できる。 身体の状態の観察法・測定方法、急変時対応の理解ができる。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	医療的ケアとは	介護の社会化の歴史から、医療制度とその変遷を学ぶ。							
2									
3	人間と社会 保健医療制度とチーム医療①	「個人の尊厳と自立」の理解と実践に向けた心構えと、「医療・介護の倫理」からあるべき専門職としての姿の義務を学ぶ。							
4									
5	保健医療制度とチーム医療②	保健医療に関する諸制度や改正法の概要を知る。 医行為に關係する法律と、医療的ケアを実施できる条件を学ぶ。 チーム医療の一員としての連携の在り方を学ぶ。							
6									
7	安全な療養生活について①	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施のための優先順位を学ぶ。 リスクマネジメントと対策を学び、報告の重要性を理解する。 救急蘇生と応急手当の目的の理解ができる。							
8									
9									
10	安全な療養生活について②	感染対策の三大原則と、感染予防の基本であるスタンダードプリコーションを学び、対人援助職である職員の健康管理と感染予防の重要性を知る。また、療養環境の整理整頓と衛生管理の根拠を学ぶ。							
11									
12	安全な療養生活について③	消毒と滅菌の違いと、使用目的や取り扱い方法を学ぶ。 主な消毒薬の使用対象・使用方法・留意点を学ぶ。							
13									
14	清潔保持と感染予防①	健康の定義とバイタルサインの測定法・留意点を学ぶ。 急変時の状態と対応、医療との連携を学ぶ。							
15									
16	清潔保持と感染予防②								
17									
18	健康状態の把握①								
19	健康状態の把握②								
20									

科目名		喀痰吸引		担当教員	高橋 香		評価の方法	筆記試験	70%	
実務経験 授業科目	○	5年以上の実務経験のある看護師であり、医療的ケア教員講習会の修了者						授業評価	20%	
対象学科	介護福祉学科			開講時期	後期	単位数		1単位	出席状況	10%
必修・選択	必修					授業時間数		26時間		
配当年次	1年			授業形態	講義	授業回数		26回		
テキスト・参考文献	新介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）									
授業概要	からだのしくみを理解し、喀痰吸引が必要な状況を捉えることができる。また実際の器材の使用方法を理解し、適切に操作することを学ぶ。清潔・不潔の観念がわかり急変時への対応や事故を未然に防ぐ必要性を理解できる。									
到達目標	呼吸のしくみやいつもと違う呼吸状態の確認ができ、それに伴う苦痛と障害についての理解ができる。自然排痰機序を知り、喀痰吸引が必要な状態の理解ができる。吸引を受ける利用者・家族の気持ちを理解し吸引実施に関する説明・対応ができる。器具・器材の清潔保持・手指消毒を踏まえての感染予防、急変・事故発生の対応や事前対策が理解できる。吸引技術の記録・報告ができる。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論			呼吸のしくみと主な呼吸器官各部の名称・機能・はたらきを復習し、生命維持における呼吸の重要性を学ぶ。						
2				正常の呼吸といつもと違う呼吸の違いが理解ができる。呼吸困難がもたらす心身の苦痛や判断力の低下の理解ができる。						
3										
4				喀痰吸引が必要な状態と観察のポイントが理解でき、確実な喀痰吸引法を学ぶ。						
5										
6				吸引を必要とするこどもの状態と疾患を学び、子どもの吸引の留意点・対応を理解する。大人と子どもの使用物品や指示内容の違いの意味の理解ができる。						
7										
8				利用者・家族の吸引に対する気持ちを理解し、「説明と同意」の重要性を学ぶ。呼吸器感染の兆候と予防の留意点、実施者の確実な手技の必要性を学ぶ。						
9										
10				喀痰吸引により生じる危険な状態を理解し、急変や事故発生時の対応と医療職との連携を学ぶ。						
11										
12				人工呼吸器のしくみと留意点を学ぶ。人工呼吸器が必要な疾患や対応の理解ができる。						
13										
14				まとめ						
15										
16	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説			吸引の必要物品・器具・器材のしくみについて学び、清潔操作と清潔保持の意味を理解する。また、必要物品の消毒薬・消毒方法を理解する。						
17				吸引前の利用者への説明、心身の準備などを学ぶ。						
18										
19				吸引の実施手順と留意点を学ぶ。吸引実施に伴う利用者の状態や吸引物の確認事項を学ぶ。						
20										
21				喀痰吸引に伴うケアを、根拠に基づいて学ぶ。						
22										
23				医療職への報告及び連絡のポイントやタイミングを学ぶ。記録の意義と記録内容・書き方を学ぶ。						
24										
25				まとめ						
26										

科目名		PC表現	担当教員	氏家 留美子		評価の方法	試験・課題	70%	
実務経験 授業科目							受講態度・出席	30%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	後期	単位数		1単位		
必修・選択	選択				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	演習	授業回数	30回			
テキスト・参考文献		『30時間アカデミック Office2021』Windows11対応 実教出版							
授業概要		コンピューターの基礎を理解した上で、Windowsの基本操作やワープロソフト・表作成ソフト・プレゼンテーションソフトを用いた、ビジネス文書・表計算・発表用スライドの作成法を学ぶ							
到達目標		コンピューターの操作の基本を理解し、就職活動や業務現場で活かせるコンピューターの知識、操作技術を身につける							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	授業概要	授業の進め方・評価方法について							
2	パソコンの基礎知識	Windowsの基本操作・入力方法							
3	Word①	ビジネス文書の作成（基本的な書式設定・印刷設定）							
4									
5	Word②	表作成（行列操作・書式設定・罫線の編集・結合や分割・サイズ調整）							
6									
7	Word③	イラストや写真などの画像挿入・図形作成・ワードアート作成							
8									
9	Word④	ビジネス文書やチラシの作成							
10									
11	PowerPoint①	プレゼンテーションの概要・スライドの作成・スライドショー実施方法							
12									
13	PowerPoint②	アニメーション設定・画面切り替え効果・印刷設定・図解表現の手法、生成AIを活用した情報収集と内容整理							
14									
15	PowerPoint③	提示する主題でプレゼンテーションの作成							
16									
17	PowerPoint④	作成したプレゼンテーションの発表と評価							
18									
19	Excel①	入力と編集方法・四則演算式の作成・SUMやAVERAGE関数の作成・書式設定							
20									
21	Excel②	書式設定・行列操作・罫線・表示形式・印刷設定							
22									
23	Excel③	相対参照と絶対参照の使い分け							
24									
25	Excel④	グラフの作成と編集							
26									
27	Excel⑤	いろいろな関数の使用							
28									
29	Excel⑥	表作成・関数・グラフのまとめ							
30									

科目名		組織活動・チームマネジメント	担当教員	宍戸 衡		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験がある。事業所における管理職等の経験から、チームマネジメントの在り方について専門知識や関わり方などを教授する。					出席率	30%
	対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年		単位数	2単位
	必修・選択	必修		授業形態	講義		授業時間数	30時間
配当年次	2年		授業回数			30回		
テキスト・参考文献		最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 (中央法規出版)						
授業概要		現場で求められる組織活動について、グループワークを通して学ぶ。またリーダーシップ、チームマネジメントについて、事例を参考にしつつ、現場でのOJTやOFF-JTの在り方等について教授する。						
到達目標		チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、組織の中でチームの一員としてリーダーとして働くための能力の習得を目的とする。						
授業コマ数	テーマ		内容					
1 2	介護実践におけるチームマネジメントの意義①		チームマネジメントの意義を考える					
3 4	介護現場で求められるチームマネジメント①		ヒューマンサービスの特性、自立に向けた介護とサービスの関係性					
5 6	介護現場で求められるチームマネジメント②		マネジメントとチームマネジメント、介護人材としての介護福祉士					
7 8	ケアを展開するためのチームマネジメント①		ケアを展開するための必要なチームとその取り組み					
9 10	ケアを展開するためのチームマネジメント②		チームでケアを展開するためのマネジメント					
11 12	ケアを展開するためのチームマネジメント③		チームの力を最大化するためのマネジメント					
13 14	リーダーシップ・フォロワーシップ①		リーダーシップとサーバントリーダーシップの比較からみる現代のリーダーシップ					
15 16	リーダーシップ・フォロワーシップ②		リーダーシップ、フォロワーシップについて考える					
17 18	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①		介護福祉職のキャリアと求められる実践力を理解する					
19 20	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②		教育体系(OJT・OFF-JT)の仕組みを理解する					
21 22	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③		スーパービジョンの機能について理解する					
23 24	組織の目標達成のためのチームマネジメント①		組織の理解(福祉サービスを支える組織、構造)、運営管理 組織における災害対策、コンプライアンスの遵守					
25 26	組織の目標達成のためのチームマネジメント②		災害時(地震、火災、浸水等)における緊急マニュアルの有り方、 実際の施設での準備、体験について学ぶ(職員対談、訪問、オンライン含)					
27 28	組織の目標達成のためのチームマネジメント③		非常事態管理① 災害時における地域連携					
29 30	組織の目標達成のためのチームマネジメント④		非常事態管理② 災害時における地域連携・業務継続計画					

科目名		社会保障と社会福祉に関する諸制度	担当教員	佐藤 正宏		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目							出席率	30%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数		30回		
テキスト・参考文献		『社会保障入門2026』（中央法規出版）							
授業概要		公的扶助を中心にしながら、社会保障制度全般について基礎的な知識を学ぶ。							
到達目標		現実社会が抱える問題を、さまざまな角度から捉え、一方的な情報に惑わされず、冷静に考えられるようになる。またその対処について、私的にできること、社会全体として取り組むべきことを考えられる。							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	社会保障制度①	社会保障の全体像を把握する							
2									
3	社会保障制度②	社会保障の目的と原理・原則							
4									
5	社会保障制度③	地域共生社会について							
6									
7	生活保護制度①	保護の申請から決定まで							
8									
9	生活保護制度②	扶助の種類、内容							
10									
11	権利擁護①	成年後見制度 地域福祉権利擁護事業							
12									
13	権利擁護②	成年後見制度 自立支援事業							
14									
15	医療保険制度①	医療保険制の仕組み、保険者等							
16									
17	医療保険制度②	各種医療保険の加入者について							
18									
19	年金保険制度①	年金保険制度の仕組み、種類について							
20									
21	年金保険制度②	受給者の条件や加入の条件について（学生納付特例制度等）							
22									
23	雇用保険制度、労働者災害補償制度	雇用保険の仕組み、失業保険等、労災保険について							
24									
25	介護保険制度	介護保険制度の全体像について							
26									
27	社会手当	児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当							
28									
29	雇用・就労制度	障害者雇用促進法・高齢者雇用安定法							
30									

科目名		介護福祉士実践論	担当教員		①湯村恵里子 ②佐藤 正宏		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある教員が、福祉従事者として地域における役割・機能について講義・演習を行う。						受講態度・出席	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位			
必修・選択	必修			授業形態	講義	授業時間数		30時間	
配当年次	2年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献	よくわかる地域福祉 ミネルヴァ書房								
授業概要	介護福祉において、要介護者が地域との関わりを保ちながら生活していくことの重要性について理解する。								
到達目標	①地域における社会資源について理解を深め、その現状から今後の介護福祉の課題が理解できる。 ②福祉コミュニティにおける介護福祉士の役割が理解できる。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	地域包括ケア①	地域包括ケアについて・地域包括ケアが必要となる背景							
2									
3	地域包括ケア②	地域包括ケアの政策の変遷・医療政策と介護政策の課題							
4									
5	地域包括ケア③	医療と介護の一体化・地域医療体制の構築と地域包括ケア							
6									
7	地域包括ケアと地域福祉①	地域福祉の考え方と地域包括ケア							
8									
9	地域包括ケアと地域福祉②	社会福祉協議会と地域包括支援センターの連携 ネットワーキングと社会資源開発							
10									
11	地域包括ケアと地域福祉③	地域包括ケアシステムと地域包括支援体制づくり							
12									
13	地域包括ケアと地域福祉④	地域密着型サービス・地域共生ケアと地域福祉 災害時における地域包括ケア体制							
14									
15	地域包括ケアを支える制度①	地域支援事業・介護予防・日常生活支援総合事業・包括支援事業 任意事業							
16									
17	地域包括ケアを支える制度②	地域包括支援センター・介護保険と地域包括ケア 福祉用具・住宅改修支援事業・高齢者の住まいの現状と政策							
18									
19	地域包括ケアを支える制度③	高齢者虐待と高齢者虐待防止法①							
20									
21	地域包括ケアを支える制度④	高齢者虐待と高齢者虐待防止法②							
22									
23	社会福祉の基本理念と生活支援	福祉の基本理念（ノーマライゼーション・インテグレーション等）							
24									
25	地域包括ケアを支える専門職	保健・医療・福祉の各専門職の連携							
26									
27	要介護者を支える地域包括ケア①	認知症の人を支える地域包括ケアの支援事例等							
28									
29	要介護者を支える地域包括ケア②	脳卒中の人を支える地域包括ケアの支援事例等							
30									

科目名		介護福祉とリハビリテーション	担当教員		①高橋 慧 ②熊谷 竜太		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目	○	当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、リハビリテーションの役割・機能について講義する。						授業態度	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位			
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	図解でわかる リハビリテーション（中央法規）								
授業概要	実践を交えながら介護とリハビリテーションのあり方について学習し、リハビリテーション介護の知識と技術を修得する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念を理解し、リハビリテーション介護について説明することができる。</li> <li>・リハビリテーション介護の基本技術を習得し、疾患別リハビリテーションの考え方を理解することが出来る。</li> </ul>								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	リハビリテーションの理念①	リハビリテーションの本来の意味・歴史							
2		ノーマライゼーション・IL運動など							
3	リハビリテーションの理念②	完全参加と平等・多様性と包摂、エンパワメント・ストレングス							
4		リハビリテーションの定義、障害の捉え方（ICIDHからICFへ）							
5	リハビリテーションの分野①	医学的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、教育的リ							
6		ハビリテーション（障害児教育・インクルーシブ教育）							
7	リハビリテーションの分野②	職業的リハビリテーション（職業訓練・就労支援【移行・継続】・							
8		福祉的就労）、総合的リハビリテーション							
9	リハビリテーションを支える職種	医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、義肢装具							
10		士、薬剤師、心理職（公認心理師・臨床心理士）、管理栄養士、視能訓練士など							
11	「活動を育む」リハビリテーション①	「活動を育む」とは？、ADL・APDL・IADL、リハビリテーション医学、							
12		理学療法・作業療法・言語聴覚療法など							
13	「活動を育む」リハビリテーション②	リハビリテーションにおける栄養・看護、リハビリテーション工学							
14		（バリアフリー・ユニバーサルデザイン・福祉用具・ロボット）など							
15	障害・疾患ごとのリハビリテーション①	精神科領域疾患のリハビリテーション							
16		小児疾患のリハビリテーション							
17	障害・疾患ごとのリハビリテーション②	脳血管疾患のリハビリテーション							
18		（急性期・回復期・生活期）実技を含む							
19	障害・疾患ごとのリハビリテーション③	運動器疾患のリハビリテーション							
20		（急性期・回復期・生活期）実技を含む							
21	障害・疾患ごとのリハビリテーション④	認知症・高齢者のリハビリテーション							
22		（急性期・回復期・生活期）実技を含む							
23	地域・施設におけるリハビリテーション	地域リハビリテーションのシステムとかかわり							
24		施設の特徴とリハビリテーション							
25	レクリエーション支援のデザインと実践①	小集団における作業参加を促すレクリエーションデザイン							
26									
27	レクリエーション支援のデザインと実践②	大集団における作業参加を促すレクリエーションデザイン							
28									
29	リハビリテーションと福祉用具・住宅改修	補装具、日常生活用具、住居の改造、ユニバーサルデザイン							
30		医療の法律、介護保険法、障害者基本法、福祉六法、障害者総合支援法など							
	リハビリテーションに関連する法律								

科目名		コミュニケーション技術Ⅱ	担当教員		庄司 香織		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、介護を必要とする人の理解や記録やコミュニケーション方法の理解について講義を行う。						課題	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位		出席	10%
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』（中央法規出版）								
授業概要	対人援助を築くための効果的なコミュニケーションの基本を、実際の介護場面で実践できるように演習を通じて体得していく。チームケアの方法や重要性を演習にて身につける。								
到達目標	実際の介護場面で、利用者ご本人や利用者家族に信頼されるコミュニケーションが図れる。同職種や他職種との連携やチームワークに支障をきたさない円滑なコミュニケーションが図れる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1 2	コミュニケーション障害への対応の基本		コミュニケーション障害のさまざまな原因を学ぶ (1年次の復習も兼ねる)						
3 4	コミュニケーション障害のある人への支援①		視覚・聴覚障害者の方の日常生活への支障を理解し、コミュニケーション技術を学ぶ						
5 6	コミュニケーション障害のある人への支援②		構音障害・失語症がある方の日常生活への支障を理解し、コミュニケーション技術を学ぶ						
7 8	コミュニケーション障害のある人への支援③		認知症・高次脳機能障害がある方の日常生活への支障を理解し、コミュニケーション技術を学ぶ						
9 10	コミュニケーション障害のある人への支援④		精神疾患がある方の日常生活への支障を理解し、コミュニケーション技術を学ぶ。						
11 12	コミュニケーション障害のある人への支援⑤		知的・発達障害がある方の日常生活への支障を理解し、コミュニケーション技術を学ぶ						
13 14	コミュニケーション障害のある人への支援⑥		さまざまな障害のある方への支援について、事例を読みコミュニケーションの支援方法を考える						
15 16	介護におけるチームのコミュニケーション①		チームにおけるコミュニケーションの意義や目的は何かを理解する						
17 18	介護におけるチームのコミュニケーション②		報告・連絡・相談の留意点を理解し、6W3Hを明確にした情報の共有を学ぶ						
19 20	介護におけるチームのコミュニケーション③		記録の意義や目的を理解し、介護職における記録のさまざまな種類（介護記録・報告書・チェック表など）の活用方法を学ぶ						
21 22	介護におけるチームのコミュニケーション④		記録の方法と書き方 5W1Hを活用した簡潔で明確な記録を書いてみる						
23 24	介護におけるチームのコミュニケーション⑤		会議・議事進行・説明の技術① 一つの議題をもとに、グループで意見をまとめ人前で発表することを体験する						
25 26	介護におけるチームのコミュニケーション⑥		会議・議事進行・説明の技術② 一つの議題をもとに、グループで意見をまとめ発表することを体験する						
27 28	介護におけるチームのコミュニケーション⑦		事例検討を行う意義・目的を理解し、問題解決に向けた手法を学ぶ						
29 30	介護におけるコミュニケーション技術		介護者として必要なコミュニケーション技術とは何かを考えてみる						

科目名		生活・家事支援技術	担当教員		①松根 ひろ子 ②高鳥 美奈子		評価の方法	課題・制作物	60%
実務経験 授業科目	○	病院にて管理栄養士として就業、食事指導及び給食管理業務の他、小学校の肥満児教室、地域高齢者対象に講演等を定期的に行った。調理師の資格を持ち、病院給食の調理や料理教室の講師の経験の他、洋品のリフォーム業務の経験も有す。						演習報告書 (毎回)	40%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	4単位			
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数	60時間			
配当年次	2年				授業回数	60回			
テキスト・参考文献	「生活支援の基礎を学ぶ」介護福祉看護実践のための家政学（建帛社） 2026 生活Navi （実教出版）								
授業概要	家事援助における技術の必要性の理解と、知識の習得とその実践を行う。								
到達目標	自立した生活を送れるように対象者に必要な衣食住の家事援助ができる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	家事支援の必要性と内容		家事支援の種類を考える。						
2			自分の為の家事と支援者としての家事の相違を考える。						
3	衣服の管理 湿式洗濯		洗濯の仕方の確認（洗剤・漂白剤・糊料・柔軟仕上げ剤の特徴）し						
4			洗濯を行う。						
5	染み抜き 燃焼実験		しみの種類や付着した製品による対応の違い 染み抜きを行う。						
6									
7	アイロンがけ		アイロンかけの目的と適切なかけ方 アイロンをかける。						
8									
9	基礎縫い①		縫うことの意味と注意事項 裁縫道具の確認 糸と布の関係						
10									
11	基礎縫い②		基本的な縫い方 地直し 並縫い 返し縫 折伏せ縫い						
12									
13	基礎縫い③		基本的な縫い方 半返し縫い 本返し縫 止め方						
14									
15	基礎縫い④		基本的な縫い方 まつり方 千鳥掛け ボタン・スナップ付け						
16									
17	個人製作①		ミシンの仕組みと扱い方 作品の制作						
18									
19	個人製作②		ミシンの仕組みと扱い方 作品の制作						
20									
21	住生活演習①		衛生面と安全面から環境整備を考える						
22									
23	住生活演習②		快適な住まいを考える 室内の色彩や配置のかかわり						
24									
25	調理の基礎 計量		調理の注意点と供食の意味 重量と容量 食品の計量						
26									
27	包丁の使い方 卵の調理		基本の切り方と名称 卵の調理性						
28									
29	調理の基本1 炊飯 煮物		煮干し出し汁 煮物の作り方 乾物の使用						
30									

科目名	生活・家事支援技術	担当教員	①松根 ひろ子 ②高鳥 美奈子		評価の方法	課題・制作物	60%	
対象学科	介護福祉学科	開講時期	通年	単位数		4単位	演習報告書 (毎回)	40%
必修・選択	必修		授業形態	演習		授業時間数	60時間	
配当年次	2年	授業回数		60回				
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	美味しいご飯の炊き方	ご飯 味噌汁 煮魚 切り干し大根炒め煮						
33 34	調理の基本2 洋食を作る	挽肉の粘りを引き出す ブイヨンについて ゼラチンの扱い方						
35 36	洋食の盛り付け方	パン ハンバーグ にんじんグラッセ コンソメスープ フルーツゼリー						
37 38	調理の基本3 軟飯食を作る	展開食・軟飯食を理解する 混合だしの取り方 青菜のゆで方						
39 40	お粥の炊き方	全粥 鶏と野菜の煮物 すり流し汁 青菜のお浸し						
41 42	調理の基本4 中華を作る	中華料理の特徴 中華食材 牛肉・野菜を千に切る						
43 44	食品を均一に切る	ご飯 青椒肉絲 わかめスープ 中華風あえ物						
45 46	調理の基本5 洋食の調理法	魚を下す ムニエル フレンチドレッシング						
47 48	魚の下し方	ご飯 魚のムニエル 野菜スープ コールスローサラダ						
49 50	調理の基本6 変わりご飯	すまし汁 酢の物 寒天の扱い方						
51 52	炊き込みご飯の作り方	炊き込みご飯 すまし汁 きゅうりの酢の物 水ようかん						
53 54	郷土料理	郷土料理で使用する食材の理解 漬物の塩分						
55 56	郷土料理とは	油麩井 おくずかけ 白菜の浅漬け						
57 58	献立作成	食品群の観点から高齢者の献立を作成する						
59 60	献立作成の実践	食事摂取基準 高齢者にあった食事 配膳図の理解						

科目名		生活・介護支援技術Ⅲ		担当教員		①湯村恵里子②佐藤 正宏 ③高橋 香④奥田 育代		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として業務に従事した経験のある教員が、障害や高齢者の理解に加え障害に合わせた実際の支援内容や介護の創意工夫について講義・演習を行う。							課題提出 ・受講態度	20%
対象学科	介護福祉学科			開講時期	通年	単位数	4単位		出席	10%
必修・選択	必修					授業時間数	60時間			
配当年次	2年			授業形態	演習	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ									
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。									
到達目標	尊厳の保持や利用者の個性や状態に応じた自立・自律や社会に向けた生活支援の提供ができる。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	自立に向けた環境整備の介護①			快適な室内環境(住宅改修等)						
2										
3	自立に向けた環境整備の介護②			臥床している状態での寝具交換①						
4										
5	自立に向けた環境整備の介護③			臥床している状態での寝具交換②						
6										
7	自立に向けた更衣の介護①			臥床している状態での着脱介助①						
8										
9	自立に向けた更衣の介護②			臥床している状態での着脱介助②(障害や状態に応じた介助)						
10										
11	自立に向けた移動の介護①			移乗動作全般にわたり介助が必要な利用者の介助 車いすからベッドへの移乗介助						
12										
13	自立に向けた移動の介護②			福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗の介助						
14										
15	安楽な姿勢・体位を保持する介護①			安楽な姿勢・体位を保持する介護の目的・褥瘡の予防						
16										
17	安楽な姿勢・体位を保持する介護②			安楽な姿勢・体位を保持する介護(側臥位、半座位、起座位等) 安楽な体位を保持するための道具・用具						
18										
19	休息・睡眠の介護①			休息・睡眠とは 快適な睡眠の一連の流れ・安眠を阻害する要因						
20										
21	休息・睡眠の介護②			安眠を促す介護をするために介護福祉職がすべきこと						
22										
23	自立に向けた清潔保持の介護①			清潔保持の介助(全身清拭、部分清拭等)						
24										
25	自立に向けた清潔保持の介護②			清潔保持の介助(ベッド上での洗髪、手浴、足浴)①						
26										
27	自立に向けた清潔保持の介護③			清潔保持の介助(ベッド上での洗髪、手浴、足浴)②						
28										
29	自立に向けた清潔保持の介護④			入浴・清潔保持の介護における多職種との連携						
30										

科目名	生活・介護支援技術Ⅲ	担当教員			①湯村恵里子②佐藤正宏 ③高橋香④奥田育代	評価の方法	試験(筆記)	70%
対象学科	介護福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		課題提出 ・受講態度	20%
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数			
配当年次	2年	授業回数			60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	自立に向けた排泄の介護①	排泄に関する様々な介助①（自己導尿、座薬、浣腸等）						
33 34	自立に向けた排泄の介護②	排泄に関する様々な介助②（ストマー等）						
35 36	自立に向けた排泄の介護③	排泄の介護における多職種との連携						
37 38	応急手当の知識と技術①	応急手当についてと実際（バイタルサイン測定）福祉施設での実際						
39 40	応急手当の知識と技術②	応急手当についてと実際（胸骨圧迫とAED）福祉施設での実際						
41 42	災害時における生活支援①	聴覚障害のある方とのコミュニケーションとケアの方法①						
43 44	災害時における生活支援②	聴覚障害のある方とのコミュニケーションとケアの方法②						
45 46	災害時における生活支援③	聴覚障害のある方とのコミュニケーションとケアの方法③						
47 48	人生の最終段階における介護①	人生の最終段階における介護（アセスメントの視点・終活について）						
49 50	人生の最終段階における介護②	人生の最終段階における多職種連携の必要性・グリーフケアについて						
51 52	事例検討①	座位からの杖歩行介助(利用者の状態に応じた介助)						
53 54	事例検討②	更衣から立ち上がりの介助(利用者の状態に応じた介助)						
55 56	事例検討③	ベッドから車いすへの移乗介助(利用者の状態に応じた介助)						
57 58	事例検討④	ベッド上でのおむつ交換						
59 60	実技試験	事例検討①～④より試験						

科目名		介護過程Ⅱ		担当教員		①佐藤正宏 ②湯村恵里子 ③高橋 香		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として業務に従事した経験のある教員が、施設で生活する利用者の生活や利用者望む生活とは何かを理解し根拠に基づく介護過程の展開について講義を行う。							出席	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	4単位	評価の方法			
必修・選択	必修				授業時間数	60時間				
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	60回				
テキスト・参考文献		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規）								
授業概要		①介護過程の基礎をふまえ、様々な利用者の生活に合った介護過程の展開を理解する。 ②介護実習で介護過程の実践を通して習得し、根拠に基づく介護過程の能力を育成する。								
到達目標		介護過程の展開における一連のプロセスを習得して、他職種を含むチームとして介護過程を展開することがで								
授業コマ数	テーマ		内容							
1	介護過程の展開のプロセス		アセスメントとは何かについて1年次を振り返って考える							
2										
3	介護過程の基礎的理解 1		アセスメントについて①							
4			(情報の解釈)							
5	介護過程の基礎的理解 2		アセスメントについて②							
6			(情報の関連づけ)							
7	介護過程の基礎的理解 3		アセスメントについて③							
8			(課題とは・課題を捉える視点・アセスメント用紙の書き方①)							
9	介護過程の基礎的理解 4		アセスメントについて④							
10			(課題の明確化・アセスメント用紙の書き方②)							
11	介護過程の基礎的理解 5		介護計画について①							
12			(介護計画とは)							
13	介護過程の基礎的理解 6		介護計画について②							
14			(目標とは・目標の設定の仕方・アセスメント用紙の書き方③)							
15	介護過程の基礎的理解 7		介護計画について③							
16			(具体的な支援方法について・アセスメント用紙の書き方④)							
17	介護過程の実践的展開 1		事例検討①							
18										
19	介護過程の実践的展開 2		事例検討②							
20										
21	利用者の生活と介護過程の展開 1		利用者の様々な生活①（時代背景や職業歴、地域性など）							
22										
23	利用者の生活と介護過程の展開 2		利用者の様々な生活②（時代背景や職業歴、地域性など）							
24										
25	利用者の生活と介護過程の展開 3		様々な生活における介護過程の展開①							
26										
27	利用者の生活と介護過程の展開 4		様々な生活における介護過程の展開②							
28										
29	介護過程とケアマネジメント 1		介護過程とケアマネジメントの関係性①							
30										

科目名	介護過程Ⅱ	担当教員	①佐藤正宏 ②湯村恵里子 ③高橋 香			評価の方法	試験（筆記）	70%
対象学科	介護福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		出席	30%
必修・選択	必修	授業形態	講義	授業時間数	60時間			
配当年次	2年			授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	介護過程とケアマネジメント 2	介護過程とケアマネジメントの関係性②						
33 34	介護過程の基礎的理解 8	介護計画の立案① (介護計画の立案方法、個別援助計画用紙の書き方①)						
35 36	介護過程の基礎的理解 9	介護計画の立案② (個別援助計画用紙の書き方②)						
37 38	介護過程の基礎的理解 10	実施・評価について (記録方法・個別援助計画用紙の書き方③)						
39 40	利用者の生活と介護過程の展開 5	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①						
41 42	利用者の生活と介護過程の展開 6	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②						
43 44	介護過程の実践的展開 3	事例検討③						
45 46	介護過程の実践的展開 4	事例検討④						
47 48	介護過程とケアマネジメント 3	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①						
49 50	介護過程とケアマネジメント 4	チームアプローチにおける介護福祉士の役割②						
51 52	介護過程のまとめ 1	ケースレポート作成・準備①						
53 54	介護過程のまとめ 2	ケースレポート作成・準備②						
55 56	介護過程のまとめ 3	ケースレポート作成・準備③						
57 58	介護過程のまとめ 4	ケースレポート作成・準備④						
59 60	介護過程のまとめ 5	ケースレポート発表						

科目名		介護過程実践	担当教員			評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、レクリエーションや個別援助計画の理解について講義を行う。					受講態度 ・出席状況	30%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数		4単位	
必修・選択	必修				授業時間数		60時間	
配当年次	2年		授業形態	演習	授業回数	60回		
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座8 介護過程 介護福祉士国試ナビ2026 中央法規 お年寄りとコミュニケーションが深まる！楽しく盛り上がるレクリエーション100							
授業概要	授業や介護実習、生活体験を通して学んだ知識や技術を統合できる能力アップを目指す。							
到達目標	授業や介護実習、で体得したものを関連付けながら、介護過程の理論に生かせる能力を養う。							
授業コマ数	テーマ		内容					
1	余暇支援展開演習①		公共施設の高齢者や障害者への配慮ある環境とは①					
2								
3	余暇支援展開演習②		公共施設の高齢者や障害者への配慮ある環境とは②					
4								
5	余暇支援展開演習③		公共施設の高齢者や障害者への配慮ある環境とは③					
6								
7	余暇支援展開演習④		公共施設等の福祉マップ作成①					
8								
9	余暇支援展開演習⑤		公共施設等の福祉マップ作成② まとめ 発表					
10								
11	高齢者の生きてきた時代の理解		時代背景に応じた生活や余暇活動を知る①					
12								
13	高齢者の生きてきた時代の理解		時代背景に応じた生活や余暇活動を知る②					
14								
15	レクリエーションとは		求められるレクリエーションとは・レクリエーションの意義と効果					
16								
17	レクリエーションとは		アイスブレイキングの意義と目的					
18								
19	個別レクリエーション		利用者の状態に合わせた個別レクリエーションの立案①					
20								
21	個別レクリエーション		利用者の状態に合わせた個別レクリエーションの立案②					
22								
23	個別レクリエーション		利用者の状態に合わせた個別レクリエーションの実施①					
24								
25	個別レクリエーション		利用者の状態に合わせた個別レクリエーションの実施②					
26								
27	個別レクリエーション		利用者の状態に応じたレクリエーションの評価・振り返り					
28								
29	集団レクリエーション		利用者の状態に合わせたレクリエーションとは 余暇活動においてチームケアとは					
30								

科目名	介護過程実践	担当教員	①佐藤正宏 ②湯村恵里子 ③高橋 香			評価の方法	試験(筆記)	70%
対象学科	介護福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		受講態度・出席状況	30%
必修・選択	必修	授業形態	演習	授業時間数	60時間			
配当年次	2年			授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	集団レクリエーション	利用者の状態に合わせたレクリエーションの立案①						
33 34	集団レクリエーション	利用者の状態に合わせたレクリエーションの立案②						
35 36	集団レクリエーション	利用者の状態に合わせた集団レクリエーションの実施①						
37 38	集団レクリエーション	利用者の状態に合わせた集団レクリエーションの実施②						
39 40	集団レクリエーション	障がいを含む対象者とのレクリエーションの実践① (ニュースポーツ体験)						
41 42	集団レクリエーション	障がいを含む対象者とのレクリエーションの実践② (ニュースポーツ体験)						
43 44	集団レクリエーション	体験を通して新しい知識、経験を増やす① (ハピネスケア)						
45 46	集団レクリエーション	体験を通して新しい知識、経験を増やす② (ハピネスケア)						
47 48	集団レクリエーション	体験を通して新しい知識、経験を増やす③ (ハピネスケア)						
49 50	集団レクリエーション	体験を通して新しい知識、経験を増やす④ (ハピネスケア)						
51 52	介護過程展開の演習	事例を通しての個別援助計画①						
53 54	介護過程展開の演習	事例を通しての個別援助計画②						
55 56	介護過程展開の演習	事例を通しての個別援助計画①						
57 58	介護過程展開の演習	事例を通しての個別援助計画②						
59 60	介護過程展開の演習	個別援助計画の評価						

科目名		介護総合演習Ⅱ		担当教員 ①佐藤正宏②湯村恵里子 ③高橋 香④庄司香織⑤矢口 怜 ⑥永野淳子⑦古戸洋子 ⑧千葉ちあき⑨村崎嘉成		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある教員が、実習としての心構えや役割などいるかを福祉従業者としての役割・機能について講義を行う。					出席	30%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数		3単位		
必修・選択	必修				授業時間数		60時間		
配当年次	2年		授業形態	演習	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規） 介護実習指導要領（仙台医療福祉専門学校）								
授業概要	介護総合演習Ⅰをふまえ、介護実習での実践を通して知識や技術を深める。そして、専門職である介護福祉士としての介護観を身につける。								
到達目標	様々な利用者に対応できる基礎知識や技術を習得して、根拠に基づいた介護実践の必要性を理解する。								
授業コマ数	テーマ			内容					
1	介護実習の概要			介護実習の年間予定と実習施設について					
2									
3	介護実習Ⅱの基本的理解 1			介護実習Ⅱの概要（実習スケジュール・学習内容） 個人票・出席簿等の書類作成					
4									
5	介護実習Ⅱの基本的理解 2			介護実習Ⅱの実習目標・受け持ち利用者について					
6									
7	介護実習Ⅱの基本的理解 3			介護実習Ⅱの記録（アセスメント用紙・実習日誌の書き方）					
8									
9	実習準備 1			実習施設の事前準備① 施設の理解・施設までの公共交通機関の理解					
10									
11	実習準備 2			実習施設の事前準備② 身だしなみについて					
12									
13	実習準備 3			実習施設の事前準備③（学内オリエンテーション）					
14									
15	実習Ⅱオリエンテーション			実習事前打ち合わせ（施設オリエンテーション）					
16									
17	介護実習Ⅱの事前学習 1			介護実習Ⅱの実習姿勢・心構え 実習の取り組み・専門職としての姿勢					
18									
19	介護実習Ⅱ（入所）帰校日 1			学校での実習指導（日誌・アセスメント用紙について）					
20									
21	介護実習Ⅱ（入所）帰校日 2			学校での実習指導（日誌・アセスメント用紙について）					
22									
23	知識と技術の統合 1			介護実習Ⅱを終えて① 介護過程の展開について					
24									
25	知識と技術の統合 2			介護実習Ⅱを終えて② 実習全体を通して					
26									
27	介護実習Ⅲの基本的理解 1			介護実習Ⅲの概要（実習スケジュール、学習内容）					
28									
29	介護実習Ⅲの基本的理解 2			訪問介護とは・訪問入浴とは					
30									

科目名	介護総合演習Ⅱ	担当教員	①佐藤正宏②湯村恵里子 ③高橋 香④庄司香織⑤矢口 怜 ⑥永野淳子⑦古戸洋子 ⑧千葉ちあき⑨村崎嘉成			評価の方法	試験（筆記）	70%
対象学科	介護福祉学科	開講時期	通年	単位数	3単位		出席	30%
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数		60時間	
配当年次	2年	授業回数		60回				
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	介護実習Ⅲ（居宅）オリエンテーション	事業所オリエンテーション・事業所の場所確認						
33 34	介護実習Ⅲの基本的理解 1	介護実習Ⅲの概要（実習スケジュール・学習内容） 個人票・出席簿等の書類作成						
35 36	介護実習Ⅲの基本的理解 2	介護実習Ⅲの実習目標・受け持ち利用者について						
37 38	介護実習Ⅲの基本的理解 3	介護実習Ⅲの記録（アセスメント用紙・実習日誌の書き方）						
39 40	実習準備 4	実習施設の事前準備① 施設の理解						
41 42	実習準備 5	実習施設の事前準備② 施設までの公共交通機関の理解						
43 44	実習準備 6	実習施設の事前準備③（学内オリエンテーション）						
45 46	実習Ⅲオリエンテーション 1	実習事前打ち合わせ①（施設オリエンテーション）						
47 48	実習Ⅲオリエンテーション 2	実習事前打ち合わせ②（施設オリエンテーション）						
49 50	介護実習Ⅲの事前学習	介護実習Ⅲの実習姿勢・心構え 実習の取り組み・専門職としての姿勢						
51 52	介護実習Ⅲ（入所）帰校日 1	学校での実習指導（日誌・アセスメント用紙について）						
53 54	介護実習Ⅲ（入所）帰校日 2	学校での実習指導（日誌・個別援助計画について）						
55 56	知識と技術の統合 3	介護実習を終えて① 介護過程の展開について						
57 58	知識と技術の統合 4	介護実習を終えて② 実習全体を通して						
59 60	介護実践の科学的探究	根拠に基づく質の高い介護実践研究						

科目名		介護実習Ⅱ		担当教員		①佐藤正宏②湯村恵里子③高橋 香 ④庄司香織⑤矢口 怜⑥永野淳子 ⑦古戸洋子⑧千葉ちあき⑨村崎嘉成		評価の方法	施設評価	50%
実務経験 授業科目	○	現場での実務経験があり、介護教員講習会修了の専任教員が、実習指導者と連携を図りながら介護福祉士として必要な技術や知識を実践的に学ぶための指導を行う。							担当教員評価	50%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	4単位				
必修・選択	必修				授業時間数	160時間				
配当年次	2年		授業形態	実習	授業回数	20日間				
テキスト・参考文献		介護実習指導要領（仙台医療福祉専門学校）								
授業概要		高齢者や障がいのある方々が生活する施設において、実習指導者のもと利用者に関わり、学内で学んだ知識・技術等を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。								
到達目標		利用者のニーズを把握し介護過程の展開につなげる。個別に応じた生活支援技術を学ぶ。対象者に合わせた生活支援技術の見学・体験を通し身に付ける。								
授業コマ数		テーマ			内容					
入所実習20日間 (160時間)		<p>【介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障がい者支援施設にて実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者との関わりを通し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程（ニーズの理解）を実践的に学ぶ</li> <li>多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ</li> <li>対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ</li> </ul> <p>『介護実習指導要領より抜粋』</p> <p>I 施設の機能と介護福祉の役割を理解する。  1 施設概要を理解する  2 施設職員と利用者の関り方を学ぶ  3 各種記録の目的と活用方法の実際を学ぶ。  4 施設の運用プログラムに参加し、処遇全般について理解する。  5 地域社会と施設の関連について理解する。  6 介護福祉専門職として自己覚知の推進をはかる。</p> <p>II 個別介護過程展開の実際を学ぶ。  1 利用者と基本的な人間関係を形成する。  2 利用者を理解し、ニーズを把握する。  3 個別援助計画の立案・実施・評価を行う。</p> <p>III 生活支援技術の習得をする。  1 日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。  2 個人及び障害のレベルに応じた適正な生活支援技術を学ぶ。  3 住生活設備・各種介護機器の活用方法を学ぶ。  ※医療的ケアを見学し、安全・適切な技術を学ぶ。</p>								

科目名		介護実習Ⅲ		担当教員		①佐藤正宏②湯村恵里子③高橋 香 ④庄司香織⑤矢口 怜⑥永野淳子 ⑦古戸洋子⑧千葉ちあき⑨村崎嘉成		施設評価	50%	
実務経験 授業科目	○	現場での実務経験があり、介護教員講習会修了の専任教員が、実習指導者と連携を図りながら介護福祉士として必要な技術や知識を実践的に学ぶための指導を行う。						評価の方法	担当教員評価	50%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	4単位				
必修・選択	必修				授業時間数	176時間				
配当年次	2年		授業形態	実習	授業回数	22日間				
テキスト・参考文献		介護実習指導要領（仙台医療福祉専門学校）								
授業概要		高齢者や障がいのある方々が生活する施設において、実習指導者のもと利用者に関わり、学内で学んだ知識・技術等を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。								
到達目標		個別援助計画立案・実施・評価の一連の流れを体験し、介護過程の展開方法を理解する。 対象者に合わせた生活支援技術の習得。								
授業コマ数		テーマ			内容					
入所実習21日間 (168時間)		<p>【介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障がい者支援施設にて実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための個別援助計画の立案・実施・評価等を実践的に学ぶ</li> <li>多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ</li> <li>対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ</li> </ul> <p>『介護実習指導要領より抜粋』</p> <p>I 施設の機能と介護福祉の役割を理解する。  1 施設概要を理解する  2 施設職員と利用者の関り方を学ぶ  3 各種記録の目的と活用方法の実際を学ぶ。  4 施設の運用プログラムに参加し、処遇全般について理解する。  5 地域社会と施設の関連について理解する。  6 介護福祉専門職として自己覚知の推進をはかる。</p> <p>II 個別介護過程展開の実際を学ぶ。  1 利用者と基本的な人間関係を形成する。  2 利用者を理解し、ニーズを把握する。  3 個別援助計画の立案・実施・評価を行う。</p> <p>III 生活支援技術の習得をする。  1 日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。  2 個人及び障害のレベルに応じた適正な生活支援技術を学ぶ。  3 住生活設備・各種介護機器の活用方法を学ぶ。  ※医療的ケアを見学し、安全・適切な技術を学ぶ。</p>								
居宅介護事業所実習 1日間（8時間）		<p>【 居宅介護 訪問入浴サービス実習 】</p> <p>○地域における介護福祉士の役割の理解と多職種連携・協働の理解について学ぶ  ・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、生活支援技術の確認、多職種協働や関連機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。  ※医療との連携のもとで行われる医療的ケアを見学し、必要な知識・技術を習得する。</p>								

科目名		認知症の理解Ⅱ	担当教員		矢口 怜		評価の方法	試験(筆記)	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、認知症の方の生活支援の経験を活かして、介護福祉士に必要な認知症の専門知識や制度などを教授する。						課題	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位		出席	10%
必修・選択	必修			授業形態	講義	授業時間数		30時間	
配当年次	2年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解 第3版(中央法規)								
授業概要	認知症高齢者の介護について、認知症に伴うこころとからだの変化と生活への影響を考える。日常生活支援、家族への支援と連携、協働について講義と事例による検討を踏まえ学習を深める。								
到達目標	①認知症によって心身機能が変化することで、人間関係や生活環境、社会との関係に支障が出ることを理解する。 ②地域で暮らす認知症のある人やその介護者を、近隣・地域で支えるネットワーク及びフォーマル・インフォーマルサポートのあり方について理解する。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解①		授業の概要 治療可能な認知症の種類や疾患について						
2									
3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解②		若年性認知症の疾患と社会的影響について						
4									
5	認知症ケアの歴史と理念		認知症の人への偏見が生まれた背景や認知症ケアの変遷						
6									
7	認知症ケアの実際①		パーソンセンタード・ケアについて						
8									
9	認知症ケアの実際②		ユマニチュード・バリデーションについて						
10									
11	認知症ケアの実際③		認知症ライフサポートモデルについて						
12									
13	非薬物療法の理解		回想法、音楽療法などの意義と実践上の留意点						
14									
15	認知症の終末期におけるケア		身体的変化の理解、意思決定支援、看取り期のケア						
16									
17	介護者支援①(家族の理解と心理的変容)		認知症の受容プロセス、介護負担(身体的・精神的・経済的)の理解						
18									
19	介護者支援②(家族への支援方法)		レスパイトケアの活用、家族会、ピアサポート、虐待防止の視点について						
20									
21	地域における支援ネットワーク		地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェ						
22									
23	チームアプローチと多職種連携		医療・保健・福祉職との連携、チームケアにおける介護福祉士の役割						
24									
25	事例検討(グループワーク)①		実際の事例を用いたアセスメントからケア方針の立案まで						
26									
27	事例検討(グループワーク)②		実際の事例を用いたアセスメントからケア方針の立案まで						
28									
29	まとめ		復習とまとめ						
30									

科目名		障害の理解Ⅱ	担当教員		永野 淳子		評価の方法	定期考査	70%
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある専任教員が、障がい者の基本的知識や特性に応じた支援方法について講義を行う。						出席状況	10%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位		課題	20%
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 14								
授業概要	障害のある人の心理や身体状況、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。								
到達目標	各障害についての医学的知識を得るとともに、障害に応じた生活支援や地域のサポート体制についての知識を身に付けることができる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	障害別の基礎的理解 障害の概要 1		障害の概要の復習・確認をする。						
2									
3	障害別の基礎的理解 障害の概要 2		障害のある人の心理を理解する。						
4									
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援①		肢体不自由（運動機能障害）の症状や特性を理解する。						
6									
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援②		視覚障害の症状や特性を理解する。						
8									
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援③		聴覚・言語障害の症状や特性を理解する。						
10									
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援④		内部障害の症状や特性を理解する。						
12									
13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑤		内部障害の症状や特性を理解する。						
14									
15	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑥		内部障害の症状や特性を理解する。						
16									
17	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑦		重複障害・重症心身障害の症状や特性を理解する。						
18									
19	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑧		知的障害の症状や特性を理解する。						
20									
21	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑨		発達障害の症状や特性を理解する。						
22									
23	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑩		精神障害の症状や特性を理解する。						
24									
25	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑪		高次脳機能障害の症状や特性を理解する。						
26									
27	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑫		難病の症状や特性を理解する。						
28									
29	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援		授業のまとめ						
30									

科目名		こころとからだのしくみⅡ	担当教員		三浦 順子		評価の方法	筆記試験	80%
実務経験 授業科目	○	看護師として当該科目に関する業務に従事した経験がある教員が、生活にこころとからだだが、どのように影響しているかを福祉従業者としての役割・機能について講義を行う。						授業評価	20%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位			
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	最新 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ（中央法規出版） 最新 介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 11（中央法規出版）								
授業概要	「こころやからだのしくみⅠ」で学んだ知識を活用し、加齢や心身の障害から生活障害に至るメカニズムを学ぶ。そのうえで、アセスメントや他職種との連携から「予防介護の視点」を理解する。								
到達目標	心身の構造と機能、特徴を把握したうえで、アセスメントや観察、多職種との連携などを駆使しながら展開する介護についての理解が深まる。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①		動く・活動することの生理的意味を理解する。機能低下、障害が及ぼす移動・活動への影響を理解する。						
2									
3	移動に関連したこころとからだのしくみ②		移動が不自由になる要因を学ぶ。移動が不自由になると生じる状態について理解する。						
4									
5	身支度に関連したこころとからだのしくみ①		生活での身支度に関するこころとからだの基本項目について理解する。						
6									
7	身支度に関連したこころとからだのしくみ②		老化にともなう機能低下について学ぶ。身支度を整えることをさまたげる要因について理解する。						
8									
9	食事に関連したこころとからだのしくみ①		摂食・嚥下にかかわる解剖としくみを理解する。食べることの生理的意味・食行動を理解する。（食欲・空腹感・満腹感・五感との関連性を学ぶ）						
10									
11	食事に関連したこころとからだのしくみ②		食行動と食事環境を理解する。食事動作に影響する要因の内容を学ぶ。						
12									
13	排泄に関連したこころとからだのしくみ①		排泄のからだのしくみと生理的意味を理解する。排泄介助時におけるこころの状態と排泄環境(排泄用具)を考える。						
14									
15	排泄に関連したこころとからだのしくみ②		排泄障害の種類と特徴を理解する。排泄障害のタイプに応じた対処方法について理解する。						
16									
17	入浴に関連したこころとからだのしくみ①		皮膚の機能のしくみを理解する。入浴をとおして得られる、清潔保持の効果を理解する。（リスク管理を含む。）						
18									
19	入浴に関連したこころとからだのしくみ②		心身機能の低下が及ぼす清潔保持への影響を理解する。清潔保持の機会に確認できる心身の状態を理解する。						
20									
21	休憩・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①		休息・睡眠のしくみと生理的意味を理解する。心地よい眠りへの工夫を考える。						
22									
23	休憩・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②		加齢が休息・睡眠に及ぼす影響を学ぶ。睡眠障害の種類とそれぞれの特徴について理解する。						
24									
25	人生の最終段階のケアに関連したこころのからだのしくみ①		人生のターミナルである「死」の捉え方を理解する。「死」は、個々の価値観が死生観に影響を与えることから、「死の質」を学ぶ。						
26									
27	人生の最終段階のケアに関連したこころのからだのしくみ②		「死」という人生の最終段階のこころやからだの変化を理解する。その上で、家族・多職種との連携も含め、終末期の支援を学ぶ。						
28									
29	人生の最終段階のケアに関連したこころのからだのしくみ③		DVDを視聴し、利用者・家族の不安や気持ちの揺れなどを理解し、看取りやその後の関わり方を学ぶ。						
30									

科目名		基礎ゼミ	担当教員		①佐藤正宏 ②湯村恵里子 ③高橋 香		評価の方法	受講態度	50%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として5年以上の実務経験があり、現場でのチームワークや実践力を活かして介護福祉士に必要な人間力を養えるよう活動を通して教授する。							活動状況	40%
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数	1単位		出席状況	10%	
必修・選択	必修				授業時間数	30時間				
配当年次	2年		授業形態	演習	授業回数	30回				
テキスト・参考文献	お年寄りとコミュニケーションが深まる！楽しく盛り上がるレクリエーション100（ナツメ社）									
授業概要	クラスや学科の行事を通して企画・運営・実施を自主的に行い、状況に応じた実践力および人間力を養っていく。									
到達目標	仲間と協力し合い、行事の企画・運営・実施に必要な実践力や人間力を身につけ、社会人として対応できる力を持つ。									
授業コマ数	テーマ		内容							
1	人間力アップセミナーⅠ		人間力アップセミナーの目的を確認 2年生による企画運営の「1年生歓迎会」を開催し、学科の交流を図るとともに行事（イベント）等の流れ（企画・実施・反省・考察）について体験しながら方法を学ぶ。 自ら考える力・自ら動く力・協力する力を培う。							
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11	人間力アップセミナーⅡ		「2年生を送る会」に参加し、1年生の思いを汲み取りながらその場を盛り上げ、共に楽しい時間を共有する。そのためにはどのように動けばよいのか等、2年間で培った観察力や人間力を、発揮する場とする。							
12										
13										
14										
15										
16										
17	人間力アップセミナーⅢ		校外活動 芸術鑑賞や体験・講話等を通して、日頃携わる機会の少ない学生に対して実施し、触れることや感じることで、考えることから、感性を磨く。							
18										
19										
20										
21										
22										
23	人間力アップセミナーⅣ		校外活動 芸術鑑賞や体験・講話等を通して、日頃携わる機会の少ない学生に対して実施し、触れることや感じることで、考えることから、感性を磨く。							
24										
25										
26										
27	人間力アップセミナーⅤ		校外活動 芸術鑑賞や体験・講話等を通して、日頃携わる機会の少ない学生に対して実施し、触れることや感じることで、考えることから、感性を磨く。							
28										
29										
30										

科目名		経管栄養	担当教員	三浦 順子		評価の方法	筆記試験	80%	
実務経験 授業科目	○	5年以上の実務経験のある看護師であり、医療的ケア教員講習会の修了者					授業態度	20%	
対象学科	介護福祉学科		開講時期	通年	単位数		1単位		
必修・選択	必修				授業時間数		26時間		
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数		26回		
テキスト・参考文献	新介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規出版） 介護職にできる「医行為でない行為」ビジュアルガイド（MCメディカ出版）								
授業概要	消化器系のしくみを理解し、経管栄養が必要な状況を捉えることができる。また実際の器材の使用方法を理解し、適切に操作することを学ぶ。清潔・不潔の観念がわかり急変時への対応や事故を未然に防ぐ必要性を習得する。								
到達目標	消化器系のしくみ・消化器系の症状について理解でき、経管栄養法の留意点・根拠について理解できる。経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを理解し、それぞれに対応した説明ができる。器具・器材の清潔保持・手指消毒を踏まえての感染予防、急変・事故発生の対応と事前対策が理解できる。経管栄養の記録・報告ができる。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみと働きを復習をし、摂食から排泄までの流れの理解ができる。							
2		消化器の主な症状と対応を学ぶ。							
3		経管栄養が必要な状態や疾患を学ぶ。							
4		経管栄養のしくみと種類別の実施上の留意点を学ぶ。							
5		経管栄養を必要とする子どもの疾患・状態の理解と留意点を学ぶ。							
6									
7		経管栄養に関する感染と予防についての理解ができる。							
8									
9		経管栄養の実施の有無に関するインフォームドコンセントの重要性と、利用者 と家族の経管栄養に対する気持ちへの対応を学ぶ。							
10									
11		経管栄養により生じる危険の種類と対応、予防策を学ぶ。							
12		ヒヤリハット・アクシデントの実際と報告・報告書の重要性を学ぶ。							
13		緊急を要する状態（症状）を根拠も含め理解ができる。							
14		急変・事故発生時の対応・連携・体制の確認の重要性が理解できる。							
15		まとめ							
16	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施 手順解説	経管栄養の必要物品とそのしくみを知り、清潔操作の方法と清潔保持の理解を する。							
17									
18		経管栄養の手順を学ぶ。							
19									
20		経管栄養実施前・中・後の利用者の心身の状況の観察・留意点を学ぶ。							
21									
22		経管栄養に必要なケアを根拠に基づいて学ぶ。							
23									
24		医療職への連絡・報告・記録の意義を学ぶ。							
25									
26		まとめ							

<b>科目名</b>		医療的ケアの演習		<b>担当教員</b>	①三浦 順子 ②高橋 香 ③小林 恵子		評価の方法	試験	100%
<b>実務経験 授業科目</b>	○	5年以上の実務経験のある看護師であり、医療的ケア教員講習会の修了者							
<b>対象学科</b>	介護福祉学科		<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	1単位			
<b>必修・選択</b>	必修				<b>授業時間数</b>	28時間			
<b>配当年次</b>	2年		<b>授業形態</b>	演習	<b>授業回数</b>	28回			
<b>テキスト・参考文献</b>		新介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規出版）							
<b>授業概要</b>		モデル人形を使用し準備から片付け、報告まで一連の流れ・手順が理解できているか評価を受ける。							
<b>到達目標</b>		利用者の観察ができる。清潔操作にて正確・安全に物品の取り扱い（準備から片付け、報告まで）ができる。 異常の早期発見・対応ができる。救急蘇生の必要性が理解でき、的確に実施できる。							
<b>授業コマ数</b>	<b>テーマ</b>		<b>内容</b>						
1	高齢者及び障害児・者の経管栄養のケア実施		経鼻経管栄養（一人当たり5回評価実施）						
2									
3									
4									
5									
6									
7	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引のケア実施		胃ろう・腸ろう栄養（一人当たり5回評価実施）						
8									
9									
10									
11									
12									
13	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引のケア実施		口腔内吸引（一人当たり5回評価実施）						
14									
15									
16									
17									
18									
19	救急蘇生法の実施		鼻腔内吸引（一人当たり5回評価実施）						
20									
21									
22									
23									
24									
25	救急蘇生法の実施		安全確認・安全確保。反応の確認。援助体制の確保。 救急のABC確認。心臓マッサージ・気道確保・人工呼吸の実施。 AEDの基本操作。						
26									
27									
28									